

平成7年度

全国魚食普及担当者
育成検討会 報告書

平成8年3月

社団法人 大日本水産会

ま え が き

本会は、平成8年2月6日、東京・三会堂ビル・石垣記念ホールにおいて、「全国魚食普及担当者育成強化検討会」を開催した。

本検討会は、国の水産物消費改善総合対策事業の一環として位置づけられていることにより、水産庁より国の消費拡大関係予算にかかわる概要説明をいただくとともに、全国都道府県及び各主要団体が、それぞれ実施している魚食普及事業の相互情報交換の場を提供すること、併せて、時世に適った講演会の実施等によって、各々の事業活動が効果的に展開されることを開催目的とした、非常に意義深い検討会とされている。

当日は、北は北海道から南は沖縄県にいたる主務課担当官並びに民間団体及びその他の関係者総計70名の参集を得て、水産物の消費拡大にかかわる熱心な活動報告と意見交換が行われ、併せて、農林水産省食品総合研究所機能生理研究室の鈴木平光室長による「水産物の生理機能とPL法」という講演が行われたことにより、成功裡に本検討会を終了することができた。

ここに、熱心にご講演いただいた講師、開催にご協力いただいた関係各位に対し、心から謹んで御礼申し上げます。

平成8年3月

社団法人 大日本水産会

水産物の生理機能とPL法

講師／農林水産省食品総合研究所 食品機能部
機能生理研究室長 医学博士 鈴木 平 光

実は、昨日、郵便物の中に「ミツカン情報ファイル」という小冊子があり、何気なく開いたところ「小・中学生の食生活 現代っ子は料理好き」というタイトルが目にとまりました。

全国の母親4,218人に対するアンケート結果だそうです。それによると、最近の子供たちは、かなり料理に興味を持ってきていると書かれていました。まあ、子供が一人でできる料理というのは簡単なものが多く、せいぜい調理済みの冷凍食品を電子レンジでチンするとか、料理の盛りつけを手伝う、目玉焼きやインスタントラーメンを作る程度で、少し料理らしいものでは、野菜炒めやカレーライスを作るといったところが多いようですが、料理づくりに興味を持っているということは、よいことだと思います。

それに併せて“現代っ子の好きな食材、嫌いな食材”という記事があり、好きなものは牛肉、ハム・ソーセージ、めん類が上位を占め、魚はと言うと、残念ながらマグロがやっと10位ぐらいで、あとは下位の方に並んでいました。一方、嫌いな食材の上位には、イワ

シ、サンマ、サバなど魚が多く、子供の魚離れが実感できます。

ところが、母親に、「子供に食べさせたい食材は何か」と聞くとそのNo.1がイワシで、あとはサンマとかいった魚が挙がってくるそうです。つまり、親は食べさせたいのだが子供はあまり喜ばないというのが魚というわけです。ここにお集まりの皆さまは、日頃、魚食普及に携わっておられる方々とうかがっております。これからも皆さま方のお力をもって、子供たちに「魚料理って楽しいからやってみよう、自分で作って食べると、とっても美味しいよ」ということを、ぜひ教えてあげていただきたいと思います。

さて、本日は、「水産物の生理機能とPL法」ということで、簡単にお話しをさせていただきたいと思います。

水産物に含まれる機能性成分

まず、水産物中に含まれる生理機能物質、いわゆる機能性成分というものにはどんなものがあるかを表1にまとめてみました。

ご覧のように、やはりDHA、EPAが水産物に含まれる機能性成分としては特徴的なもので、各々どういう効果があるかは、皆さまよくご存知と思いますから省略させていただきますが、それ以外にビタミンAとかビタミンB₁₂、ビタミンD₃といったビタミン類もかなり含まれています。特にビタミンB₁₂、ビタミンD₃については「四訂の食品成分表」に数値が出てきて、機能的にも非常に興味深い成分であると言えます。

というのは、これからの高齢化社会を考えたとき、特に女性の場合には、閉経後、骨の中のカルシウムが抜けて行き、いわゆる骨粗しょう症になりがちです。その結果、階段を降りるような場合でもちょっとしたはずみでポッキリと骨を折ってしまうことがあるし、

表1 水産物に含まれる主な機能性成分

機能性成分	機能性成分を多く含む水産物	期待される主な効果
DHA	マグロ(脂身)、スジコ、ブリ、サバ、サンマ、ウナギ、イワシ、サケ	脳の発育促進、脳機能の維持向上、視力低下予防、痴呆症予防、ガン予防、アトピー性皮膚炎の改善、動脈硬化・高血圧の予防
EPA	マイワシ、マグロ(脂身)、サバ、ブリ、サンマ、ウナギ、サケ	血栓予防、ガン予防、アトピー性皮膚炎の改善、動脈硬化・高血圧の予防
ビタミンA	アンコウのキモ、ウナギのキモ、ウナギ、ヤツメウナギ、ウニ、アナゴ、ホタルイカ	網膜機能や皮膚の健康及び味覚や聴覚の維持、夜盲症の予防
ビタミンB ₁₂	ハマグリ、カキ、シジミ、アサリ、サンマ、カツオ、サバ、マグロ	悪性貧血の予防、知覚異常や精神障害の改善
ビタミンD ₃	アンコウのキモ、イカナゴ、ウナギ、カジキ、マグロ、カツオ塩辛、サケ、ニシン、ムツ	カルシウムの吸収促進、骨軟化症及び骨粗しょう症の予防、インスリン分泌の調整
タウリン	タコ、カニ、イカ、エビ、カキ、アジ、イワシ	血中コレステロール低下、動脈硬化・高血圧の予防、心疾患・脳卒中の予防、胆石の予防
食物繊維	コンブ、アラメ、アオノリ、ヒジキ、ワカメ	大腸ガンの予防、便秘の改善、動脈硬化・高血圧の予防、肥満予防
カルシウム	小魚の佃煮、煮干し、タタミイワシ、ドジョウ、タニシ	骨軟化症及び骨粗しょう症の予防
鉄	ホッキガイ、バカガイ、シジミ、アサリ、カキ、マグロ、スジコ、ワカサギ	貧血の予防、口腔疾患の予防
亜鉛	カキ、トラバガニ、サザエ、エビ、サバ、イワシ	味覚の維持、発育不全の予防、生殖機能の維持
リチウム	コンブ、スルメ、ノリ、アサリ、カキ、ワカサギ	気力の維持、精神障害の改善
ヨウ素	コンブ、テングサ、アオサ、ワカメ、ノリ	甲状腺機能の維持、甲状腺腫の予防

また、腰痛の原因になったりもします。

そんなとき体内にビタミンD₃が十分あると、カルシウムを食品から吸収すると同時に、そのカルシウムを骨に沈着させる、つまり骨にくっつける作用を高めてくれるのです。

ですからカルシウムさえ補給すれば事足れりではなくて、ビタミンD₃も一緒に摂取することが大切なわけです。

よく、ビタミンD₃は日光浴をすれば体内で合成されると言われます。確かに日光浴は有効な方法ですが、それだけでは十分でないことが分かってきました。数値で言うと約100IU(国際単位)を食品から摂らなければ間に合わないということになっています。

また、タコやカニ、イカ、エビ等に多く含まれるタウリンという成分も、多種多彩な機能が分かってきて注目されています。

それから、カルシウム、鉄、亜鉛といった必須元素。鉄が欠乏すると、ご承知のように欠乏性の貧血が心配ですし、亜鉛は、味覚の維持、生殖機能の維持などにも重要であると言われています。亜鉛はカキなど食べると大量に得ることができます。

リチウムという元素も入れておきました。リチウムの生理機能についての研究はまだ新しく、動物実験等の結果では、どうも気力と関係がありそうだとされています。表にあるように、海藻類、貝類、また、表にはありませんが、精製されていない塩等に多く含まれています。うつ病の治療にも使われるという実績もあります。

そして皆さんお馴染みの海藻類に多いヨウ素。ヨウ素は甲状腺機能の維持や甲状腺腫の予防に効果があると言われています。

ここに挙げたものが、現在、研究が進んでいて生理機能が分かっている成分です。私たちも日夜、水産物に含まれる機能性成分の研究をしているわけですが、最近では、油の中に含まれる“糖脂質”などについての研究も行っております。

表2 糖脂質の生理機能

1. 膜流動性の調節
2. 膜表面のマーカー（腫瘍抗原等）
3. 細胞間認識
4. 受容体機能（ホルモン等）
5. 細胞分化の調節
6. 膜酵素活性の調節
7. その他

糖脂質の役割

さて、糖脂質という成分は、私たちの体の中でどういう働きをしているのかですが、まず、色々な生体膜の流動性を調節するという極めて重要な働きをしています（表2）。

生体膜の流動性がなぜ大切かと言うと、例えば、血管の中の血液が一瞬たりとも詰まることなく、常にスムーズに流れるためには、血液を構成している赤血球（本来は円盤状をしている）が、ギュッと楕円形にたわんで通らなければなりません。柔らかくたわむためには、当然、赤血球を包んでいる生体膜の流動性がよくなければならないわけです。

また、脳の生体膜の流動性も大変重要です。脳には、色々な信号を受けたり出したりする受容体というものがありますが、その受容体の膜の流動性も、糖脂質に関係があると見られています。さらに免疫機能との関係も研究されています。

表3 水産生物中の糖脂質

中性スフィンゴ糖脂質	
ManCer	イケチヨウガイ
Gal α 1 \rightarrow 6Glc β 1 \rightarrow 1' Cer	ウニ卵
Ml ₂ Cer	セタシジミ、イケチヨウガイ、(小麦)
Gal β 1 \rightarrow 6Gal β 1 \rightarrow 1' Cer	サザエ
酸性スフィンゴ糖脂質	
G _{T3}	魚類脳、(ウシ脳、ラット脳)
GalNAc-G _{M1}	魚類、(ヒト脳)
G _{T2}	魚類脳
G _{T1c}	魚類脳
G _{Q1c}	魚類脳
I ⁶ NeuAc α -GlcCer	ウニ
I ⁶ NeuGc α -GlcCer	ウニ、エゾヒトデ、イトマキヒトデ、クロダイ、サザエ
グリセロ糖脂質	
HSO ₃ -6Qui β 1-3DAG	ウニ配偶子、(クロレラ)

というように、体の中における糖脂質の役割については、いわゆる医学レベルの研究は進んでいます、それを食べたらどうなるかという研究は、残念ながら、まだまだこれからという段階で、水産物にどのように含まれているかも、今のところウニの卵、サザエなど一部の貝類、魚の脳にあることが分かっている程度で(表3)、私たちが食べている身肉についての研究は、これからという段階です。しかし、最近では高速液体クロマトグラフィーといった、精度の高い分析機器もありますから、私達も新しい糖脂質の発見を期待しながら研究を進めているところです。

このように、水産物に含まれる機能性成分については、今後どんどん分かっていくと思いますが、何といたってもここ数年、ホットな話題となったのがDHAです。このDHAも、魚の油から抽出するわけですから、当初は色々な問題がありました。例えば、高純度の

精製が難しい、魚臭がある、粉末ではない、油なので水と混じりにくい等々。

しかし最近では、非常に純度も高くなり、粉末にもできる、臭いも除けるといような技術開発が行なわれ、その結果、色々な食品の中に入るようになりました。育児用の調製粉乳は以前からありましたが、その他にもパン、ココア、牛乳、ビスケット、クッキーといった魚の臭いがしたら困るような食品にもどんどん取り入れられています。

世界中で盛んになったDHA研究

1993年に、「I S S F A L」(International Society for the Study of Fatty Acids and Lipids)という脂肪酸と脂質の研究に関する国際会議が発足し、その第1回会議をスイスのルガノで行いました。参加者は世界20カ国以上から400名にのぼりました。それだけ世界中の研究者の注目を集めていたわけです。

さらに昨年6月に、第2回会議がアメリカのワシントンDCの近くにあるNIH(国立衛生研究所)で行われ、約480名の参加者が集まりました。そして、そこで行われた会議の内容が、今のところDHA・EPAに関する最新情報になるわけです。

ちょっと専門的になりますが、その中で注目されたのがEPA・DHAといった脂肪酸が、実は、遺伝子の発現をも制御しているのではないか、あるいは遺伝子の発現と脂肪酸の摂取量とは関連があるのではないかという研究が何人かの方によって発表されたことです。

ということは、おそらく今後1、2年の間に、遺伝子発現と脂肪酸についての研究が急速に進むだろうと思います。

乳児の脳機能の発達やペルオキシゾーム疾患との関連

オーストラリアのギブソンという研究者は、「正常出産児においても、魚の油を摂取している母親の母乳で育てた方が、脳機能の発達がよい」という報告をしています。この研究がどうして意義があるかという、今までは、未熟児での脳の発達が、母乳と人工乳を比べてどうかという研究がほとんどだったからです。今度は普通に生まれた子供についての研究成果ですからそれだけ検証が進んだわけです。

また、米国のモーサーたちは、ペルオキシゾーム疾患という病気に対する効果を報告しています。

私たちの体内には、過酸化脂質を処理する機能を持つ、ペルオキシゾームという小器官があります。このペルオキシゾームの機能が低下して、過酸化脂質などの活性酸素がうまく処理できないと網膜の機能低下（視力の低下）とか、認識力の低下といった症状が起こります。これをペルオキシゾーム疾患と言いますが、どうもこれはDHAやEPAの不足と関連があるのではないかと、モーサーたちは推測しています。

さらに、スペインのマルチネッツは、そのペルオキシゾーム疾患の患者6名（子供）にDHAを与えると、視覚機能が改善し、対話などの社交性・社会性が回復したという結果も発表しています。

うつ病や精神分裂症等の精神疾患に対する効果

この会議でもう一つ注目されたのが“うつ病”との関係です。うつ病は、ある種の精神疾患ですが、オーストラリアのアダムスによると、うつ病患者の赤血球中における脂質の脂肪酸比率（例えばア

ラキドン酸とEPAの比)を見ると、どうも $\omega-3$ 系列の脂肪酸が少ないことが分かったと発表し、さらにイギリスのローアレンは、その先の実験を行っていて、精神分裂病の患者の食事に、EPAが比較的多い魚油を、1日10gずつ6週間にわたって強化したら、その精神分裂病の症状が改善したと報告しています。

その他、魚を食べている人の方が、菜食主義者(ベジタリアン)よりも血圧や血漿脂質が低いといった疫学的な研究成果もありました。この会議には日本からも20名近くの研究者が参加しましたが、その中で、富山医科薬科大学の浜崎先生はDHAの精神機能に及ぼす影響についても発表しています。

このように、EPAやDHAに関する最新の動きとしては、

- ①いわゆる遺伝子関係の研究が進んできた。
- ②従来言われていることが普通の人でも起こりうるようになった。
- ③精神病とか精神疾患にも影響があることが分かってきた。

などですが、この石垣記念ホールで昨年7月に開かれたDHAシンポジウムで発表された「老人性痴呆症の治療に対するDHAの臨床効果」(群馬大学医学部)についても、最近、別の大学で再確認されたという情報もあり、老人性痴呆症に対しては予防だけでなく治療にも役立つことが分かってきています。

市販のDHAカプセル利用者に対するアンケート調査

私どもも、この国際会議で、市販のDHAカプセルを飲んでいる987名の方に対してのアンケート調査の結果を発表しました。結果を簡単に言いますと、「飲んで体調はどのように変わりましたか」に対しては、“前よりも体調がよくなった”が3割、“少しよ

くなった”が3割、“変わらない”が4割、という結果でした。

実は、この“変わらない”という人のほとんどが、飲む前から体の調子は悪かったわけではなく、「今は健康体だが、呆けや心臓病に対するいい効果があると聞いたので、予防的に飲んでみよう」という人で、従って飲む前と現在とでは体調の変化はあまり見られないわけです。

一方、“よくなった”あるいは“少しよくなった”という人は、飲む前に何らかの症状があって、それが改善されたということを示しています。

その調査で興味深かったのは、同時に行った調査で、魚がどのくらい食べられているかを見た結果です。それによると“調子がよくなった”という人には、週に5回以上魚を食べているという人が多く、週2回以下とあまり魚を食べない人は少ないことが分かりました。

また、“体調は変わらない”という人は、逆に5回以上が少ないという結果で、体の調子がよくなった人ほど魚をよく食べているしカプセルも飲んでいるということが分かりました。

魚からどのくらいの量のDHAが得られるかと言うと、例えばイワシの場合、丸々太った大きなイワシを塩焼きにして2本食べると大体1gのDHAは得られます。サンマなら1尾、サバは半身、ブリは1切れ食べれば、1gのDHAは十分得られます。

市販のDHAのカプセルの場合は、大体、1日に5～6錠飲みなさいと書かれてありますが、これによって得られるDHAの量は、0.3～0.5g。ということは、魚を食べて得られる量の半分以下です。言い換えれば、毎日きちんと魚を食べることが、何よりもDHA補給の上では大切だというわけです。

アンケートの回答者で“体調がよくなった”と答えた人は、魚を

表4 DHAカプセル利用の効果

症 状	%	改善症状	人数(名)
①「脳・神経系の働き」の内容は次のとおりです。 ○頭がすっきりする ○記憶力が増加した ○頭痛が出にくくなった ○成績が向上した	18.1	アトピー性皮膚炎 花粉症 ゼンソク その他	59 41 13 8
②「目の働き」の内容は次のとおりです。 ○視力が向上した ○目が疲れにくくなった ○かすみ目がなおった	18.7		
③アレルギー・炎症の軽減	20.2		
④心血管系疾患因子の低下は次のとおりです。 ○血圧が下がった ○中性脂肪が下がった ○コレステロールが下がった等	10.8	疲れにくい かぜ予防 皮膚がすべすべ その他	40 13 17 52
⑤その他	20.4		
⑥不明(無回答)	11.8		

DHA補給のベースにした上で、少し多めに摂るためにDHAのカプセルを飲んだわけですが、それによって非常にいい結果が出ているということは、魚を少し多めにとれば、よりよい効果が期待できるわけです。

次に、DHAカプセルを飲んで 具体的にどういう効果があったかということ、例えば“脳・神経系の働きがよくなった”とか“目の働きがよくなった”とか、本人の主観的な改善が3割強、あとは、アレルギーとか炎症の軽減、心血管系疾患因子の低下といったところが挙げられています。また、疲れにくい、風邪の予防になる、肌がすべすべしてきたなど、DHAの働きとしては、現在のところ理屈のつけにくい効果も出てきました(表4)。

表5 治療用化学物質とDHAの違い

治療用化学物質（抗がん剤等）

- ①非常に強い作用→治療効果
- ②強い副作用あり

DHA

- ①作用は、治療用化学物質に比べて弱い
（漢方薬に似ている）
- ②強い副作用なし
- ③代謝機能は進化の過程で獲得
- ④通常摂取レベルの20～30倍の量を、毎日長期間摂取した場合には、代謝機能を超える可能性
（脂溶性ビタミンに似ている）

いずれにしても、DHAの生理効果として言われている、脳の働き、目の働き、神経の働き、アレルギーや炎症の緩和、心血管系疾患に対する働きなどが、DHAカプセルの利用者からも挙がってきているのは興味深いことだと言えます。

DHAの副作用について

一方、DHAについては、その生理効果とは逆に安全性に対することも考えておく必要があります。その一つの判断基準は“DHAの効果の度合い”ですが、私は治療用の化学物質（例えば抗がん剤）ほど強くはないが、漢方薬よりは少し強い程度ではないか思っています（表5）。なぜかと言うと、治療用の化学物質は、薬として認

表6 DHAエチルエステルの急性毒性試験結果

性	試験群 No.	投与量 (mg/kg)	経時的死亡率								死亡率 (%)	LD ₅₀ 値 (mg/kg)			
			5時間		1日		2		3				4		5
雄	1	1,160	0/5	0/5	0/5	0/5	0/5	0	>2,000				
	2	1,380	0/5	0/5	0/5	0/5	0/5	0					
	3	1,660	0/5	0/5	0/5	0/5	0/5	0					
	4	2,000	0/5	0/5	0/5	0/5	0/5	0					
雌	1	1,160	0/5	0/5	0/5	0/5	0/5	0	>2,000				
	2	1,380	0/5	0/5	0/5	0/5	0/5	0					
	3	1,660	0/5	0/5	0/5	0/5	0/5	0					
	4	2,000	0/5	0/5	0/5	0/5	0/5	0					

められているように、非常に強い作用があり、当然、それによる治療効果もありますが、同時に、強い副作用もしばしば生じます。これはもうどうしようもないわけです。

ところがDHAの場合は、作用も漢方薬よりちょっと強いかなという程度ですから、強い副作用も出ないのです。また、体の中で代謝できるので、通常レベルで食べている分には問題はありません。特に、魚で食べている限りはまったく心配がないし、カプセルにしても大体の目安量があるので、その通り摂っていれば大丈夫です。

ただし、目安量の20倍、30倍を一度に摂ると問題です。20倍、30倍というのは、カプセルで言えば1瓶飲んでしまう量で、それを長期間続けた場合には、いわゆる代謝能力を超えてしまい、過剰症による毒性が出てくる心配があります。そういう面では脂溶性のビタミン類とよく似ています。

ちなみに、日本食品分析センターで、大量のDHAをネズミに投与して、その急性毒性を見たところ(表6)、ネズミの体重1kgあ

たり2 g以上のDHAを与えても、ほとんどネズミは死なないという結果が出ました。

ネズミの体重1 kgあたり1～2 gのDHAというと、体重60 kgの人ですと、60～120 gのDHAということになり、こんな量のDHAを摂ることは、普通の食生活では不可能です。また、ネズミの1日の餌の量に対するDHAの比率で見ると、ネズミ(200 g)が食べる餌の量を1日20 gとすると、DHAは1～2%に相当します。これを人間にあてはめると、人は1日に500 gの固形分を食べますから、その1～2%は5～10 gとなります。これも普通では食べられない量ですが、それだけ食べても急性毒性は出ないということです。

DHAの大量投与については、相模中央化学研究所の矢沢先生の研究もありますが、ラットに毎日2 gのDHAを1カ月間食べさせても、まったく異常は生じなかったということです。また、私どもの研究でも、マウスにイワシの油を5%含む餌を、1年間与えた場合でもまったく異常はなく、むしろ、記憶学習能の維持向上効果を確認していますから、ほとんど毒性については考えなくていいのではないかと思います。

DHA・EPAと酸化の問題

「DHAやEPAは、非常に不安定な脂肪酸のため酸化されやすい。だから魚油をたくさん食べると、過酸化脂質が体の中に増え、がんや老化など色々な成人病に関係してくる」と言う方々がおられます。一方、様々な動物実験、疫学的研究、臨床試験等から、DHAが色々な疾患を予防することが明らかになっています。

さて、この二つの事柄は明らかに矛盾しています。では、何故こ

うした矛盾が起きるのでしょうか。

それは、過酸化脂質というものに対する考え方に間違いがあるからです。魚油を食べると、確かに体内に過酸化脂質が存在します。しかし、過酸化脂質というのは、いわゆる活性が出ている状態では色々な疾患を招く可能性はありますが、私たちの体は、そうした働きを許すことはあまりないのです。

『活性酸素と病態』（1992年 井上正康編著 学会出版センター刊）という本があります。日本でも有名な医学系の先生方がたくさん執筆されていますが、その序文で井上先生が、「過酸化脂質、活性酸素というのは、われわれは、常に、必ず作っている。空気を吸い、油を食べ、代謝する段階でどンドンできています。しかしながら体の中にはそれを除く機構がある。その除く機構が十分あるから、瞬時にして全部除くことができ、問題がない。しかもそれは二重、三重の防御機構になっている」というような要旨のことを書いています。

さらに、「人間はそれを進化の過程で作りに上げてきた。もしこの機構が破綻した時には色々な病気が出てくる。言い換えれば、活性酸素による害とか、過酸化脂質による害が生じる場合というのは、なんらかの内的な原因、例えば、病気などで生体の防御機構が崩壊した場合や、また、外的な原因としては、むしろ治療薬のように非常に強い薬剤によって、防御機構を上回るような過剰の過酸化脂質や活性酸素が、長期にわたって残存するような特殊な場合に、その弊害が出てくる」と言っています。

それでは、DHAを食べた場合はどうかというと、やはりこの中には多少過酸化されたものも入っているので、ある程度はそれが吸収されます。しかし、血液に入ると肝臓に行き、肝臓の防御機構で処理されます。また、血液中に入っている場合でも、色々な機能の

ある大事な部分には入っていないことが、私たちの実験でも分かっています。

例えば、血清中には入っているが、赤血球の膜にはほとんど入っていません。赤血球の膜というのは酸素を運んだり、二酸化炭素を運ぶかなり重要な役割を果たしているからです。また、脳でも増えません。脳は言うまでもなく大事な機能がたくさんあるからです。血液中に現れるというのは、外から入った有害物質や体の中でできた有害物質を代謝機能のある、肝臓などに運んで処理するためなのです。

また、最近分かったことですが、過酸化脂質などが体内に入ってくると、「おーい、危ないのが来たよ」という指令を何処から出して、防御機構を増やそうとする機能を、私たちの体は持っているようです。

解説が長くなりましたが、結論を言えば、過酸化脂質があるからDHAやEPAは体に悪いと言う人は、過酸化脂質が細胞毒性を持つということだけでしか物事を考えてない、つまり、片方しか見ていないわけです。もう一方には、体の中で過酸化脂質ができそうになった場合、あるいはできた場合に、それを除くための消去メカニズムがあることを十分考えていないのです。

しかし今後は、その防御機構に関する研究も、もっともっと進めていく必要があると思います。

DHA関連製品とPL法

次に、DHAの安全性に関連して、昨年7月に施行されたPL法とDHA食品のクレームについてお話ししたいと思います。

このPL法（製造物責任法）については、皆さますでにご存知か

と思いますが、その要点は、“色々な製品の欠陥でもって生命、身体、財産に被害を受けた時に適用される法律”ということで、対象はあくまでも“製品”です。これを水産物にあてはめると、鮮魚などはその範囲に入っていないわけです。

また、生命、身体、財産のうち、財産というのも、あまり水産物とは関係がなく、やはり、生命や身体に被害を受けるということが対象になってくるかと思います。

先に述べたように、鮮魚そのものは非製造物ですから、鮮魚だけを扱っている限りはこの法律は適用されませんが、それを料理して売っている料理店では、非製造物ではなくなるので適用されます。また、水産加工品も製造物ですから、当然適用されます。

このPL法のきっかけは、アメリカにおける昭和電工のトリプトファン事件ですが、約2,000億円という莫大な賠償金を、すでに患者側に支払ったと聞いています。

日本の場合は、このような大規模な訴訟に発展するケースがあるかどうか分かりませんが、皆さんの水産加工品を扱う業界としても十分注意をしておく必要があると思います。

そこで私もちょっと心配になりまして、DHA関連の商品について、現在、購入者からどのようなクレームがきているのか、製造・販売している各企業に聞いてみました。それによると、極くまれに湿疹とか発疹といった皮膚炎の発生、あるいは下痢を訴えるケースがあるとのことでした。

DHAについては、特に過敏症の人や病気の人には、このようなことが起こり得る場合もあるわけで、やはりPL法を考えると、取扱い説明書などで注意書きしておく必要があると思います。できれば店頭でも、使用上の注意を書いた貼り紙をしておくなどの対策が必要でしょう。

また、カプセルの形状が大きくて子供やお年寄りの喉につかえたりすると、大きな事故になりかねないので、メーカーによっては改善する必要があるようです。

さて、水産物については、果たしてどの程度のことが問題になるのか、今のところよく分かりません。ただ、非常に骨の強い魚の加工品を買っていった消費者が、骨を子供の喉に詰まらせ、その結果重大な健康障害を起こした。といった事故は予想できます。

ですから、そのあたりも店頭の貼り紙やチラシなどで警告し、「この魚は骨が非常に固いので、食べるときにはご注意ください」といった一言を書いておく必要もあるかと思えます。また、そういう“買う立場を考えた、きめ細やかな対応”も、魚食普及の一つとして考えていく時代だと言えそうです。

魚食普及というと、どうしても、魚のよさをどんどんアピールするといった、攻めの活動になりがちです。しかし、消費者から疑問を投げかけられたときに、きちんと説明ができる、先程の過酸化脂質ではありませんが、いわゆる防御機構を作っておく必要があると思います。そして、私自身、消費者の皆さんに魚を正しく理解していただき、食品としてのよさを分かっていたいただくために、これからも努力していきたいと思っております。ご清聴ありがとうございます。

< 付 1 >

水産物消費改善総合対策事業について

1. 趣旨

- (1) 最近の水産物の消費動向を見ると、健康志向が進むとともに有職女性の増加等を反映した簡便化志向が見られる等、消費者ニーズは多様なものとなっている。また、海なし県の消費が少ない等、地域差が見られるとともに、小中学生の魚離れも指摘されている。
- (2) 動物性タンパク質供給量に占める水産物の割合は、昭和40年には約6割であったが、食生活の洋風化等に伴い平成4年には約4割に減少しており、水産物と競合関係にある畜肉と比べて割安感がなくなった現状においては、水産物の消費拡大について適切な対策を講じないと、水産物の消費の減退を招く恐れがある。
- (3) また、輸入水産物も増加しており、このような状況に対応して、国産水産物を中心とした水産物の消費拡大のためには水産物の利用動向の把握分析を行うとともに、若年層対策、水産物の有用性の普及啓発、地域水産物の情報収集提供の推進、専門家の理解の促進等を図る必要がある。
- (4) 更に、栄養士、保健婦等を対象に作成した普及資器材をもとに、これら専門家に対し、魚の生態、季節性、栄養特性、調理方法等に関する講習会を行い、水産物についての正しい知識を普及し、もって国産水産物の消費拡大を図る。

2. 事業内容

- (1) 消費拡大のための調査、方策の検討
- (2) 専門家及び一般向け普及啓発
- (3) 地域水産物の情報収集、提供
- (4) 若年層を対象とした消費拡大対策
- (5) 多獲性魚利用拡大対策、水産缶詰等の海外市場開拓

3. 事業実施主体

(社) 大日本水産会、全国漁業協同組合連合会

4. 事業実施期間

平成7年度～平成11年度

5. 平成8年度概算決定額

123,698千円(114,000千円)

6. 補助率

定額、1/2

水産物消費改善総合対策事業の事業内容

1. 水産物消費拡大基礎事業

(1) 消費利用動向調査

(量販店、中食、外食、集団給食、専門小売店等)

(2) 消費拡大方策検討

(消費拡大の方策、各種調査結果の分析・検討等)

(3) 流通合理化検討

(魚箱の規格統一等による流通コストの削減に関する検討)

(4) 担当者育成強化事業

(地方ステーション担当者等の教育、情報交換等)

2. 水産物普及啓発事業

(1) 特定対象普及啓発(各年度に1つのガイドブックを作成)

ア. 医師向けガイドブック

イ. 栄養士向けガイドブック

ウ. 保健婦向けガイドブック

エ. スポーツ指導者向けガイドブック

オ. 量販店等向けガイドブック

(2) 不特定対象普及啓発

ア. 普及放送(テレビ)

イ. 普及資器材作成(ビデオ、パネル作成等)

ウ. 相談・提供(相談サービス、資料の配布、シンポジウムの開催)

(3) 普及啓発支援

ア. 講習会の開催(魚の生態、栄養特性、調理方法等)

イ. 専門家意識調査(アンケート調査)

3. シーフード情報ネットワーク事業

(1) 生産状況等調査

(生鮮水産物：海藻類、貝類、海産魚、淡水魚、その他の水産物、季節性、養殖、天然、水揚量、流通特性、調理方法等)

(加工品：塩蔵品、乾製品、調味加工品、ねり製品、くん製品、ふし類、調理冷凍食品、藻類製品、水産漬物、半調理食品、国産原料、輸入原料)

(2) 情報分析・蓄積整理

(検索システム開発、情報入力)

(3) 情報提供

(小冊子、FAX、案内サービス、量販店、消費者団体、外食関係者等)

(4) 情報活用状況等調査

(アンケート調査、提供情報内容、提供方法等の改善)

(5) 地域水産物全国交流普及

(水産加工品等の市場性評価、検討)

4. 若年層緊急特別対策事業

(1) 学校給食メニュー開発

(メニュー開発、メニューコンテスト)

(2) 移動ふれあい交流(移動おさかな教室)

5. 水産物消費拡大特別対策事業

(1) 多獲性魚利用拡大推進

(多獲性魚の利用状況調査及び有効利用拡大技術開発等)

(2) 新市場開拓推進

(水産缶詰等水産加工品の海外需要の開発、展示試食会等の開催)

地域水産物の広域的な流通・加工圏の形成

1. 趣旨

近年、国民の生活様式の変化等に伴って、水産物流通に占める量販店シェアや外食等業務用需要が増大しており、安定的な品質・価格での大量取引の要求が高まっている。この点において国産水産物は輸入水産物に比べて遅れをとっており、これが近年の水産物輸入の増大の一因となっている。

ウルグアイ・ラウンドの決着に伴い、輸入水産物との競争の一層の激化が懸念される状況において、国産水産物の競争力を高めるため、複数の漁協が連携し、広域的な協体制をとって原料供給・選別・加工等の役割を分担しつつ生鮮及び加工品について一定の品質、数量を確保し、地域としてのブランド化を図る必要がある。

2. 対策の内容

(1) 地域水産物高度化推進圏形成事業

①事業の内容

ア. 都道府県推進協議会の開催

都道府県に推進協議会を設置し、事業の円滑な推進のための方策検討、地域推進協議会への指導、加工・品質管理マニュアルの作成等を行う。

イ. 地域水産物高度化推進圏形成構想の策定

中核漁協を中心に周辺漁協等が一体となり、連携・協力を図るため地域推進協議会を設置し、「地域水産物高度化推進圏形成構想」を策定する。

ウ. 指導者育成

滞在型研修、先進地調査、研修会への参加等を通じて

加工、品質管理、販路開拓等に精通した人材を育成する
エ、高度化推進

製品開発、改良、生鮮物も含めた地域水産物のブラン
ド化の推進、地域水産物の品質面での向上、量販店との
直接取引の促進等を行う。

- ②事業実施主体 都道府県
- ③事業実施期間 平成7年度～平成11年度
- ④平成8年度概算決定額 45(50)百万円
- ⑤補助率 1/2

(2) 広域流通加工圏整備事業

①事業の内容

複数漁協間の連携・協力の下で、地域水産物の集中的品
揃えと出荷、原材料の融通、処理加工等の役割分担等の体
制が確立し、まとまりのある地域としてブランド化の促進
に必要な加工施設、鮮度保持施設等を計画的に整備する。

②事業実施主体

都道府県、市町村、水産業協同組合、中小企業等協同組合

③事業実施期間

平成7年度～平成12年度

④平成8年度概算決定額

水産物流通加工基盤強化対策事業のうち
低コスト流通加工型施設整備事業のうち

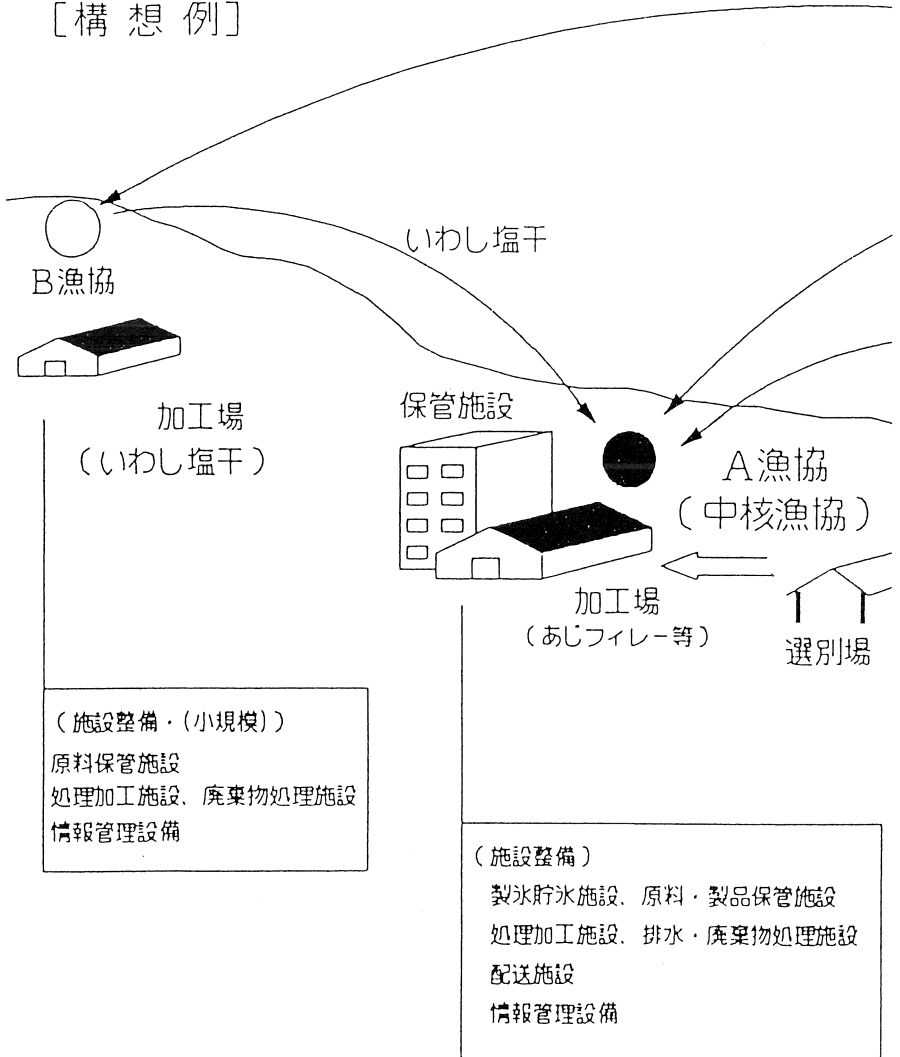
1,411()百万円

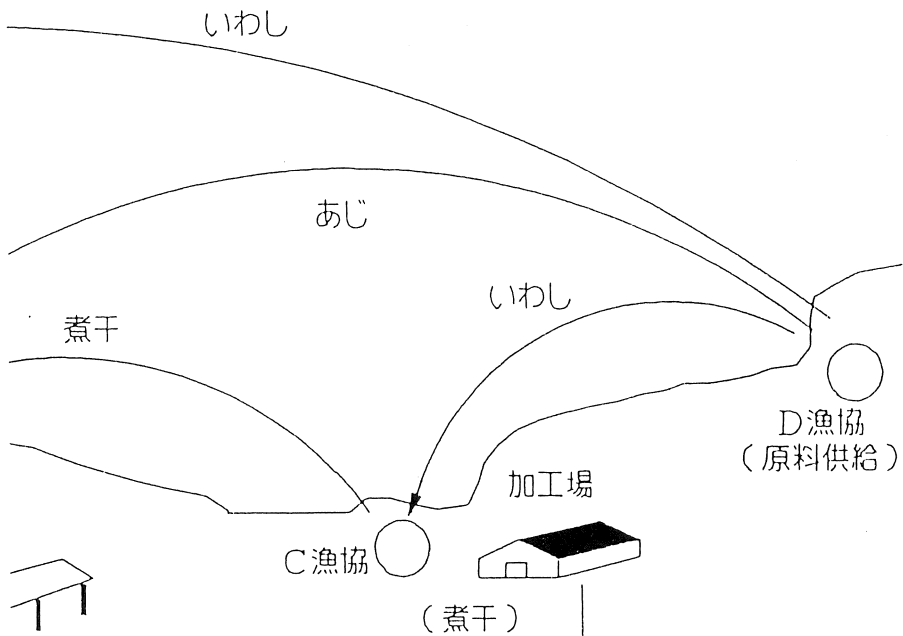
広域流通加工圏整備事業

216(133)百万円

⑤補助率 1/3

◎広域流通加工圏整備事業
[構想例]





鮮魚

注文

加工品

量販店
生協
学校給食
その他

(施設整備・小規模)
原料保管施設
処理加工施設、廃棄物処理施設
情報管理設備

< 付 2 >

平成7年度 水産物消費改善総合対策事業

社団法人 大日本水産会

1. 水産物消費拡大基礎事業 12,790,000円

(1) 消費利用動向調査事業

7,500,000円(定額)

*変化する消費者ニーズ等を的確に把握し、水産物の活用促進に資するため水産物の消費動向、販売動向、利用意識等に関し調査分析提供を行うことを目的とする。

*調査企画委員会(委員数7名)を設置し、調査テーマ、調査対象、調査方法等について検討。

*平成7年度は調査会社を(株)日経リサーチとし、首都圏主婦(59歳以下)を対象に家庭内食の「魚」に関する定量調査と、その結果を基にした定性調査をグループインタビューで行うこととした。

*調査は①家庭内食における魚食の普及、②鮮魚販売チャネルの活性化の推進に資することを目的として、現状の水産物の販売・利用度の問題点を発見し、具体的施策の方向を見出すことを課題としており、「消費者の魚に関する期待感」を「価格・安さ」「鮮度・美味しさ」「加工度・利便性」の3軸によるバランスから見てみようとするもの。

(2) 消費拡大方策検討事業

1, 200, 000円(定額)

*生産者、流通関係者、水産加工関係者、小売関係者、消費者、学識経験者等による消費拡大方策検討会(委員数14名)を設置し、水産物の消費拡大を図る上での当面する課題及び食生活の活用を促進するための方策の検討を行うことを目的とする。

*水産物消費改善総合対策事業の概要、過去10カ年の消費利用動向調査結果等を検証しながら、方策の検討を行う。

(3) 流通合理化検討事業

2, 500, 000円(定額)

*水産物の消費拡大を図る上で、流通コストの軽減措置も重要な課題とされており、水産物流通の合理化を図る上での問題点の把握及びその解決のための方策の検討を行うことを目的とする。

*産地、消費地の流通関係者を中心とした流通合理化検討委員会(委員数16名)を設置し、流通の実態調査及び問題点の把握を行い、次年度以降具体的な合理化について検討を進めることとする。

*当該年度においては、生鮮向けアジ、サバの産地市場から消費地市場までの流通行程における実態を把握し、具体的な合理化推進のための基礎資料とする。

*アジ・サバ主要水揚港(26カ所)の産地市場及び消費地(10都市)市場に対し市場における諸手数料、使用(入荷)魚箱の実態、容器に係る規格、入れ目に対する意見、要望等に係る調査を実施し、調査結果の分析、取りまとめを行う。

(4) 担当者育成強化事業

1, 590, 000円(1/2以内)

*各地域における水産物消費拡大活動を支援するため、当該活動の担当者を対象に、その育成強化を目的とした検討会の開催等を行う。

*当該講演会・検討会の開催。講演録及び資料は後日、取りまとめの上配布。

2. 水産物普及啓発事業 55, 290, 000円

(1) 特定対象普及啓発事業

7, 000, 000円(定額)

*特定対象者(医療関係者、栄養士、保健婦等の専門家)が一般消費者に対して行う水産物の普及啓発活動に資するため特定対象者に対し、栄養特性等水産物に関する知見を与えるための普及資器材を作成する。

*企画委員会(委員数7名)を設置し、普及資器材の作成に関して必要な事項及び当該普及資器材が効果的に使用されるための方策の検討を行う。

*平成7年度は作成会社を(株)協和企画とし、全国の学校栄養士(特定対象者)を対象に、「栄養士さんのための『魚の栄養辞典』」(15,000部)を作成・配布する。

*前記『魚の栄養事典』の規格は、A5判・100ページ(予定)とし、魚の栄養学と魚の種別栄養価を内容とする。

(2) 不特定対象普及啓発事業

48, 290, 000円

ア. 普及放送事業

43, 290, 000円(1/2以内)

*普及放送企画委員会(委員数9名)を設置し、放送の内容や時期等事業実施に必要な事項についての検討を行う。

*平成7年度は普及放送の制作及び放送実施を(株)協同宣伝に委託し、日本テレビ系23局ネットにより放送の『ルックルックこんにちは!』の「耳より90秒」(午前10時20分前後から90秒間)のコーナーを活用。

*平成7年9月～平成8年2月までの間に20回の放送枠内でサンマ、カツオ、マグロ、冷食、サケ、ノリ、アジ、水産加工品についての栄養と料理等についての情報提供を行う。

イ. 普及資器材作成事業(該当なし:全漁連)

ウ. 相談提供事業

5, 000, 000円(定額)

*相談窓口(おさかな相談室)を設置し、一般消費者等からの相談への対応及び資料の作成・提供を行うとともに、シンポジウムの開催等により情報提供を行う。

*相談内容・・・小学5年の副読本に、大日本水産会の名称登録を行ったことにより、小学5年を中心に子供たちからの水産業に関する問い合わせが殺到(手紙130通、電話48件)その他一般、マスコミより問い合わせ多数。

*資料作成・・・一般消費者向けの小冊子『おさかなクラブ』(A5判16頁)を「秋号」(9月発行)、冬号(12月発行)「春・夏号」(3月発行予定)を各々165,000部作成する。

*シンポジウムの開催・・・10月25日に新橋・ヤクルトホー

ルで『さようなら！成人病』と題したシンポジウムを開催。500名の聴衆を集め、魚食の重要性をアピールした。（内容の一部をNHKが収録し、平成8年3月19日の『きょうの健康』で放映予定。講演録の作成・配布も行う）

3. シーフード情報ネットワーク事業 8,000,000円

(1) シーフード情報収集・蓄積・分析・提供事業

(該当なし：全漁連)

(2) 地域水産物全国交流普及事業：

8,000,000円(1/2以内)

*各地域水産物の全国的な普及を推進するため、水産物に対する消費者ニーズ及び業務需要を把握するとともに、需要の開拓、流通経路の確立を図るため、各地域の水産加工品等を集め、その市場性の評価検討を行う。

*事業を全面的に全国水産加工業協同組合連合会に委託し、10月31日～11月1日の2日間、都立産業貿易センターにて全国各地の水産加工品約350点を集め、その市場性の評価・検討・表彰を行った。

4. 若年層緊急特別対策事業 21,700,000円

(1) 学校給食メニュー開発事業

14,200,000円(1/2以内)

*学校給食における水産物の利用を促進するため、水産物を活用した学校給食用メニューの開発及び学校給食関係者に対する水産物の栄養特性等についての情報提供を行う。

*学校給食対策協議会（委員数16名）を設置し、学校給食における水産物の利用を促進する上での問題点の把握及びその解決のための方策の検討を行うとともに、学校給食用メニュー開発のために必要な事項について協議。

*平成7年度は、実施会社を（株）N&Sプロモーションとし、（社）全国学校栄養士協議会との連携強化により、約1万点のメニュー収集を図る。

*メニュー集はB5判約300頁とし、13,000部を作成の上、全国の学校給食栄養士に配布する。

（2）移動ふれあい交流事業

7, 5 0 0, 0 0 0 円（定額）

*これまで水産物に接することの少なかった地域や若い世代に対して、水産物の栄養特性や調理方法等水産物に関する情報を提供するため、学校、イベント会場、団地等、人の集まる場所において、おさかなシャトル号を運用し、おさかな教室を開催する。

*事業の実施にあたっては、香川県漁業協同組合連合会に委託し、教育総合展（7月26日～28日 千葉幕張メッセ）ほか全国7ヵ所におけるイベント会場、小学校等を中心とした「おさかな教室」を開催した。

5. 水産物消費拡大特別対策事業 1 0, 5 0 0, 0 0 0 円

（1）多獲性魚利用拡大推進事業（該当なし：全漁連）

（2）新市場開拓推進事業

1 0, 5 0 0, 0 0 0 円（1/2以内）

*水産缶詰等の水産加工品について、海外での市場開拓を推進するため、試食展示会の開催等の普及啓発を行う。

*開拓推進検討会（委員数5名）を設置し、試食展示会の開催国、場所、時期、内容等事業実施に必要な事項について協議。

*事業の一部を日本貿易振興会に委託し、水産缶詰グループが平成8年1月27日～2月3日の間において、PNG（ポートモレスビー）、シンガポール、タイ（バンコク）において展示試食会の開催及び市場調査を行い、水産加工品グループは平成8年2月末から3月上旬にかけて、中国（大連）において展示試食会等を実施の予定。

（合計額 108,280,000円）

平成 7 年度 民間事業 (参考)

1. キャンペーン事業 37,374,750円
 - (1) おさかな教室(講演と実習)・魚食普及講演会の開催
*一般、児童・生徒、魚商、業界対象に年間約60回開催。
 - (2) 女子専門委員会の開催(通称 イキイキおさかな会議)
*築地魚市場見学&おさかな料理教室:11月18日(土)開催
(在日外国人を対象とし32名参加)
 - (3) おさかなフェア '95の開催(試食・展示・即売)
*9月30日(土)都立産業貿易センターにて開催。約2,000名の来場。
 - (4) フォーラムの開催
*7月10日(月)三会堂ビルにおいて日本脂質栄養学会との共催で「脳の働きとDHA」と題するフォーラム開催。研究担当者、専門家を対象として150名参加。

2. 広報事業 28,045,000円
 - (1) 会報の発行(おさかな協議会会報 年1回発行:作成中)
 - (2) おさかなクラブの発行(年度内 3回発行:国庫補助金の一部流用)

3. 調査事業 500,000円
*おさかな教室参加者よりアンケート調査。年度末に分析。

4. 関連事業協力費 1,100,000円
*講師研修、地域活動への協賛、魚食普及功績者表彰(平成7年11月24日 3名)等。

5. 国庫補助協力費 4, 0 0 0, 0 0 0 円

* シンポジウムの開催等への協力。

6. 管理運営費 7, 6 7 0, 0 0 0 円

* 会議費、旅費、人件費等。

7. 予備費 4 5 0, 0 0 0 円

(合 計 額 7 9, 1 3 9, 7 5 0 円)

< 付 3 >

平成7年度 水産物消費改善総合対策事業

全国漁業協同組合連合会（中央シーフードセンター）

1. 水産物消費拡大基礎事業

担当者育成強化 1, 200, 000円 (1/2)

各地方ステーション等の魚食普及担当者の業務を円滑に推進するとともに、普及活動を積極的に実践することを目的に研修会を開催した。その結果を報告書として取りまとめ配布した。

(1) 日時：平成7年6月14日（水）～16日（金）

(2) 場所：東京「南青山会館」

(3) 内容：講演

①「水産物と衛生管理」

（有）有馬食品技研 技術士 有馬和幸

②「魚食は健康の宝庫」

女子栄養短期大学 教授 国崎直道

③「学校給食の取り組みと生徒との交流」

塩釜市教育委員会学校教育課保健給食係
主査 吉田恵子

④「あなたが動けば、魚も動く」

おさかな普及協議会 調査役 佐多逸朗

：フォーラム

①魚食普及10年間の統括

②今後の魚食普及事業の取り組みについて

2. 水産物普及啓発事業

不特定対象普及啓発 普及資器材作成

10,729,000円 (定額)

普及資器材の利用度を高めるため、イメージキャラクターを配してストーリー性を持たせ、実写とアニメーションを交えたビデオとした。対象は小学校低学年を中心に全年齢層とし、食生活を通して、成人病や肥満誘因となる危機感を視覚で訴える手法とした。

(1) 企画作成委員会 年4回 7名(学識経験者等)

(2) 普及資器材作成

①ビデオテープ 1種類 (テーマソング付き)

・タイトル 「リッキーマリンのお魚パワーだ！
全開だ！」(カラー17分)

・配布先 地方ステーション
全国視聴覚ライブラリーセンター
その他中央団体

②目録パンフ これまで制作した普及用資器材(ビデオ等)を紹介

・配布先 地方ステーション等

3. シーフード情報ネットワーク事業

19,526,000円 (定額・1/2)

国内水産物を扱う小売業、外食産業、生協などに対し、産地情報を販売促進情報として提供することにより、国内水産物の販売経路の確保・拡大を目指す。提供資料は冊子にし、本年度は11月、12月、2月、3月と4回発行。

(1) 情報企画委員会 年4回 12名(学識経験者等)

(2) 「シーフードシーズンニュース」冊子

(A4判 1色刷 9～10頁 5,000部)

①配布対象：スーパーマーケット・生協・外食産業・水産物小売商等

②内容：国内水産物の持つ季節性や魚種のおいしさを引き出す調理方法、地域の食べ方、あるいは水産加工品情報を掲載

(3) 情報活用動向調査

「シーフードシーズンニュース」の活用状況を確認するとともに、今後、さらに国内水産物の販売促進を図るにあたり、必要な情報の内容等を確認するために調査し、それらを資料等に取りまとめ、報告書を作成する。

4. 水産物消費拡大特別対策事業

多獲性魚利用拡大推進 5,000,000円(1/2)

いわし・あじ・さば等の多獲性魚を利用した水産加工品の新技術・新製品等の啓発普及を図るとともに、魚肉ミンチ等大量消費を行うための検討及び問題点の把握、並びに流通方法の調査・検討を行い、広域的かつ大量に普及しうる消費者ニーズにあった製品への技術開発及び啓発普及を行う。

本年度は主として消費者を対象としたアンケート調査を中心に、技術開発に関する現時点での研究の取りまとめを行う

(1) 利用拡大検討委員会の開催

委員：9名(学識経験者等)

(2) 多獲性魚加工利用実態調査

多獲性魚を原料とする練り製品、レトルト食品等に

ついて消費者を対象としたアンケート調査を行う。

(3) 多獲性魚加工利用技術開発及び普及

アンケート調査を基に、加工食品等製品の食感、味付け、製品形態等の改善の技術開発を行う。

< 付 4 >

平成 7 年度

中央団体の消費拡大事業の現状報告

<p>中央団体名 担当者の役職氏名</p>	<p>(社) 日本冷凍食品協会 専務理事 比佐 勤</p>
<p>平成7年度予算規模</p>	<p>『冷凍食品まつり特別事業』実施特別会費 100,000千円 日本冷凍食品協会経常経費より特別支出 20,000千円 合 計 120,000千円</p>
<p>平成7年度 『冷凍食品まつり特別事業』実施概要</p>	<p>1. 一般消費者対象 店頭プレミアムキャンペーン (1) 内容：認定証マークを官製はがきに貼って応募する (2) 告知方法： ア. 新聞広告 朝日・読売 夕刊全国版 9月30日・10月18日 毎日・産経 首都圏夕刊 9月30日 ブロック紙 3紙 9月30日・10月18日 主要地方紙 34紙 9月30日 イ. 店頭チラシ 3,000,000 枚印刷配布 (3) 賞品： 1等 賞品 10万円旅行クーポン 100名 2等 賞品 オートスター又は鍋焼ポット 1,018名 (小計 16,000千円) (4) 応募総数：585,297 通 (前年比161%)</p> <p>2. 業務用ユーザー対象プレミアムキャンペーン (1) 内容：特製応募はがきのアンケートに答えて応募 (2) 告知方法： 協会会員社と業務用卸店がユーザーに配布 応募はがき 1,000,000 枚印刷配布 (3) 賞品： 5万円の旅行券又はグルメ券 100名 (4) 応募数：31,559通 (前年比86.8%)</p> <p>3. PRイベント (1) 内容：冷凍食品サンプリング (計60,000パック 配布) (保冷袋に冷凍食品3パックと蓄冷剤を入れて) (2) 会場：東京/丸の内、有楽町、新宿、池袋、上野、錦糸町 大阪/梅田、難波、天王寺 (3) タイトル：『冷凍食品18万食プレゼント』</p> <p>4. パブリシティ (1) 一口アンケート「今、あなたが一番会いたい人は？」 募集：240 メディアにリリース、新聞24紙、雑誌2誌に掲載 結果掲載：新聞40紙 (内地方紙36紙)、雑誌2誌に掲載。 (2) 1等当選者にアンケート「冷凍食品の利用実態と意識」</p>

<p>中央団体名 担当者の役職氏名</p>	<p>日本鯉鰯漁業協同組合連合会 販売部 副調査役 本間 恵</p>
<p>平成7年度予算規模</p>	<p>100,000,000円</p>
<p>平成7年度実施概要</p>	<p>1. 販売促進事業</p> <p>1) 「冷凍マグロキャンペーン」の実施 「10月10日まぐろの日」を中心とした10週間、鮮魚店・量販店等にまぐろ祭の実施協力を要請し、協力店舗の全国約6,000店舗に販促資材を提供。併せて懸賞募集、キャンペーンソングの制作、まぐろパーティーの開催。</p> <p>2) 「冷凍カツオキャンペーン」の実施 検討中</p> <p>3) 生産者直売会等の実施 本会並びに各県組合が10月および年末に生産者直売会等を実施。</p> <p>2. 新規需要開拓事業</p> <p>1) 料理講習会等の実施 関東甲信越の生協組合員等に、解凍・料理方法の講習等を実施。</p> <p>2) 冷凍ストッカーの活用等による販路の拡大 冷凍ストッカーを一定期間無償貸与し、高品質冷凍かつお・まぐろ製品の販売を実施。</p> <p>3. 広報宣伝活動</p> <p>1) マスメディアの活用 テレビ・新聞等の取材等を活用し、冷凍かつお・まぐろ製品の商品特性のPRを実施。</p> <p>2) テレビ番組の放映 大日本水産会の国庫補助事業の活用等。</p> <p>4. その他</p> <p>1) 販促資材の作成・配布 ポスター、パンフレット等の販促資材を作成し、生産者直売会等に活用。</p>

<p>中央団体名 担当者の役職氏名</p>	<p>全国さんま漁業協会 業務課長 工藤文良</p>
<p>平成7年度予算規模</p>	<p>民間負担金 11,589,700円</p>
<p>平成7年度実施概要</p>	<p>1. 消費拡大事業の概要</p> <p>1) 全国地方新聞等を媒体として広告掲載し、「さんま料理」小冊子の希望者を募り、郵送料同封者に無料で配布した。 (47,000冊)</p> <p>2) 消費拡大を行うため、地方自治体等が実施するさんま関係のイベントに、生さんまを無料提供した。(10,000尾)</p> <p>3) 大日本水産会の魚食普及放送企画委員会を通じてテレビ放映した。 (2,000,000円)</p>

中央団体名 担当者の役職氏名	(社) いわし食用化協会 専務理事 宮本 誠								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">2,500,000円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">11,000,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(13,500,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	2,500,000円	都・道・府・県費	0円	民間負担金	11,000,000円	(合計額)	(13,500,000円)
国庫補助金	2,500,000円								
都・道・府・県費	0円								
民間負担金	11,000,000円								
(合計額)	(13,500,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 消費拡大推進事業の概要</p> <p>前年度とはほぼ同様で下記の事業を実施した。</p> <p>(1) いわしを使った調理講習会 (社) 全国まき網漁業協会の委託をうけ、(社) 農山漁村女性・生活活動支援協会に依頼して北海道を除く46都府県で開催した。(実施期間：平成7年10月～11月)</p> <p>(2) 食品と栄養の移動教室 (社) 栄養改善普及会が実施している移動教室に参加し、29都道府県70カ所で開催。 (実施期間：平成8年1月～3月)</p> <p>(3) 「'95教育総合展・食教育ゾーン」(平成7年7月26～28日)、「'95おさかなフェア」(平成7年9月30日)への参加。 生鮮いわしの無料配布、料理パンフレット等の提供。</p> <p>(4) 「いわし料理の会」の開催 (平成7年10月12日) 毎年「いわしの日」(10月4日)にちなみ、いわし料理の会を松坂屋銀座店と共催、また、地下食品売場で生鮮いわしの販売を行う。</p> <p>(5) 料理パンフレット「いわし・さばメニュー30」の配布</p> <p>2. 多獲性魚利用拡大推進事業(国の補助事業)</p> <p>平成7年度から5カ年間にわたり、全漁連からの委託を受け実施する事業で、マイワシ等多獲性魚を原料とする各種加工品の利用実態、問題点についてのアンケート調査、並びに消費者ニーズにあった加工品の技術開発による消費の一層の拡大をねらいとするもので、平成7年度は、主として、消費者を対象としたアンケート調査を中心に、技術開発に関する現時点での研究のとりまとめを行う。 (事業費 5,000,000円 補助率1/2)</p>								

中央団体名	全国蒲鉾水産加工業協同組合連合会						
平成7年度事業概要	<p>1. 全国かまぼこ祭～全国蒲鉾品評会～ 全国のかまぼこを一堂に展示し、消費者のかまぼこに対する関心を高めるとともに、かまぼこ業者に対しては、品評会により農林水産大臣賞を授与するなどにより、技術の向上に資することを目的としている。そのため、かまぼこ製品の展示の他、機械類、資材も展示している。また、シャトル号により学校及び街頭における魚食普及宣伝を行うとともに、会場内においてゲーム、クイズ等の消費者向けイベントを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場：島根県立産業交流会館（毎年全国各地持回り開催） ・開催期間：平成7年11月11日～13日（3日間） ・事業費：31,600千円（うち全蒲負担額11,700千円） <p>2. 11月15日「かまぼこの日」キャンペーン 「かまぼこの日」の認知とかまぼこ製品への関心を高め、広く一般家庭への消費拡大を推進することを目的としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施期間：平成7年11月1日～11月30日 （但し、プレミアム応募締切りは12月9日当日消印有効） ・実施地域：全国 ・告知方法：キャンペーンツール（応募ハガキ、ポスター）を会員メーカーに配布し、会員メーカーから店頭又は流通関係業者を通じて消費者に応募ハガキを配布。主婦向け情報誌2誌に1頁大広告を掲載。 ・応募及び抽選：応募はかまぼこ製品の購入を前提とするクロード方式で、商品の製造者名部分、バラ売り商品の場合は販売店のスタンプを応募ハガキに貼付、捺印してもらい郵送12月20日に抽選を行い当選者を決定。 ・賞品： <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>グランプリ賞</td> <td>香港・海鮮グルメツアー</td> <td>30名</td> </tr> <tr> <td>ハッピー賞</td> <td>オリジナルテレカ</td> <td>1,085名</td> </tr> </table> （賞品の当選者数は11月15日を記念し1,115名とした） ・事業費：18,300千円（会員メーカーの負担） <p>3. その他の消費拡大事業</p> <p>(1) 所属組合の消費拡大事業の推進のため事業費の一部助成</p> <p>(2) 関係団体が実施する消費普及事業への参加</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「おさかなフェア'95」への参加 ②大日本水産会が実施する学校給食用おさかなメニュー作成事業に参画 	グランプリ賞	香港・海鮮グルメツアー	30名	ハッピー賞	オリジナルテレカ	1,085名
グランプリ賞	香港・海鮮グルメツアー	30名					
ハッピー賞	オリジナルテレカ	1,085名					

中央団体名 担当者の役職氏名	全国水産加工業協同組合連合会 指導部 係長 大畑文孝								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>4,000,000円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>4,000,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(8,000,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	4,000,000円	都・道・府・県費	円	民間負担金	4,000,000円	(合計額)	(8,000,000円)
国庫補助金	4,000,000円								
都・道・府・県費	円								
民間負担金	4,000,000円								
(合計額)	(8,000,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>地域水産物全国交流普及事業</p> <p>消費者ニーズに合った水産加工品等の市場拡大と流通経路の確立を図るため、各地域の加工品等について、量販店、生協、外食産業等実需者による市場性の評価・検討を行う。</p> <p>事業費 8,000,000円 補助金 4,000,000円(補助率 50%)</p>								

1. 魚食普及活動について

当委員会では、魚食普及活動の推進のため、社団法人大日本水産会・大阪おさかな普及協議会・大阪おさかな健康食品協議会等に積極的に参加・協力した。

(1) 組合としての活動

①料理講習会及び講演会

大阪府下の小・中学校のPTA、婦人団体等主催による料理講習会の開催に際して講師派遣並びに材料の提供を行い昨年中に6回実施した。今年も積極的に推進していきたい。

●料理講習会及び講演会日程（平成7年1月～12月）

開催日	開催場所
3月22日	大阪市福島区吉野子供会料理講習会
7月13日	太田会青年部料理講習会
9月29日	豊中消費者協会料理講習会
10月3・4日	環境科学研究所栄養専門学校同窓会有志主催料理教室講師派遣
10月16日	美原町立美原中学校PTA母親委員会市場見学
11月16日	大阪福島税務署料理講習会
11月20日	大阪市中央区集団給食研究会栄養士部会料理講習会

②お正月用品宣伝リーフレット

昨年に引き続き北海道水産物加工業協同組合より頂いた「数の子リーフレット」を2万枚、ポスターを20枚、それぞれ塩干店舗の方々を通して配布した

③魚食普及用手提げ袋の作成、配布

料理教室や、市場見学に参加される方々への魚食普及用として、手提げ袋を5,000袋作成、組合員へ5袋ずつ配布した。希望者には1袋100円で販売している。

(2) 組合としての対外活動

①社団法人大日本水産会に協力して行った活動

同会作成の「おさかなクラブ」を、例年通り婦人団体、消費者団体、短期大学等へそれぞれ配布し、残部については各組合員の希望に応じて配布を行った

②大阪おさかな普及協議会に協力して行った活動

同協議会は、大阪3市場の卸・仲卸・小売団体に組織されており、当委員会もこれに参加・協力した。

ア. 消費生活展への協力

大阪市消費生活生活化協会からの依頼を受けて、平成7年10月22日に行われた同イベントに参加し、魚食普及冊子、チリメン（1000食分）、カツオパック（1000袋）を提供した。

イ. 魚食普及小冊子の増刷

子供向け魚食普及用に作成したマンガ小冊子が大変好評であったことから、10,000部増刷し、関係先へ配布した。

ウ. おさかな栄養ポスター

魚食普及を図る目的で、水産物の栄養面を分かりやすくまとめた「おさかな栄養ポスター」を作成、組合員に3枚ずつ配布した。

(3) 大阪おさかな健康食品協議会に協力して行った活動

同協議会は、多獲性魚の食用利用を目的としており、当委員会はこれに参加・協力した。当協議会では10月4日を「イワシの日」と定め、毎年キャンペーンを実施しており、昨年で9回目となった。今回は京阪モールにおいて生イワシ・煮干し・イワシテンブラ等3千食を無料配布、この模様はテレビ等で放映された。

<事業概要報告>

先ず初めに、魚食の普及推進事業に、常日頃のご指導、ご協力に対し、流通のパワーを生かしながら、組織の共同事業として位置づけ、魚食を推進している同じ立場から、また、水産物の販売を天職としているものとしまして感謝と敬意を表する次第であります。私どもの組織は、会員団体112会員、その構成員は、約3万の水産物小売業者となっており、流通の最前線、最末端の街角で、地域の消費者に直に接しつつ共生し、魚としての素材と調理の技術、食べ方や焼いたり、煮たり、配達等のサービスを提供し、高齢化の進んでいる、地域社会の日々の食生活を支えている重要な役割を担い果しております。海辺でない都市や山に住んでいまでも鮮度のよい海の幸が食べられるのも、生産、流通のお陰と思っております。

魚について、物的価値の数量とか、価格のみならず情報価値として、美味しい、健康に良い(DHA・EPA・カルシウム)等、安全とか、更に広い、人間の心の世界である安心の情報が必要と考えておりまして、消費者に不安を与えたり、情報不足にならないよう努力しております。

食の不安の背景には、(1)生産の場が見えない。(2)調理の場が見えない。生産と消費の距離が大きく離れる中で、外で調理されたものを買ってきて食べる外部化に起因することが多い。科学のメジャーだけでなく、消費者の側に回って、配慮と工夫が必要であると考えます。

魚食の拡大は、価値と価格のバランス感覚で選択されると考えますが、「価値」の部分の強調を、一般消費者への普及啓発を中心に、ゴールのないマラソンのようなもので、知恵比べであると考えております。

限られた胃袋というマーケットの中で、食品の敵は食品で、何か伸びれば、何か停滞、減少するという、競争、代替関係にあることを考えて、魚食推進の運動は、さらに生産、流通ぐるみで強化していく必要があると考えます。その場合、美味しい米と結びつけ魚食文化を維持し、高めていきたいと考えております。

次に、全水商連系統の関係で実施しております魚食普及推進関係の事業としましては、切り口としては、「食品商業の活性化」(食料品小売業の活性化推進)という観点から、国の支援、助成のもとに事業を展開しておりまして、平成7年度の計画ベースでは、

(1) 都道府県を経由する国の補助事業として、

「食料品小売業共同事業促進事業」

これは宣伝・販売促進の共同事業で、①お魚まつり、②お魚セミナー(料理教室)等があります。

平成7年度実施：北海道(函館市)、岩手(花巻市)、山形県、福島県(3地区)、東京都、神奈川県、山梨県、富山県(3地区)、福岡県(福岡市)、宮崎県(延岡市)
計10都道府県 総事業費 108,000千円
(うち補助額 54,000千円)

(2) 食流機構・全水商連を経由する国の補助事業として

「食品流通業活性化推進事業」

①食品(お魚)祭、②食品(お魚料理教室)セミナー、③C I活性化等
平成7年度実施：北海道(札幌、釧路、函館、北見)、宮城(仙台)、東京(福井(鯖江)、富山、石川(金沢)、愛知(豊橋)、京都(京都)、鳥取(鳥取)、福岡、北九州、飯塚、遠賀熊本、八代、佐賀、大分)
計21団体 総事業費 40,000千円
(うち補助額 10,000千円)

(3) その他

自主的に、流通(卸・仲卸・小売)関係が業界ぐるみで「市場祭り」、「お魚祭」、「恵比須講祭り」、「天神祭」、「いかの街函館」等を実施しております。

<p>中央団体名 担当者の役職氏名</p>	<p>おさかな普及講師会 会長 松田勝成</p>
<p>平成7年度予算規模</p>	<p>民間負担金 285,000円</p>
<p>組織概要及び 主な事業内容</p>	<p><組織概要> おさかな普及講師会は、(社)大日本水産会おさかな普及協議会が、水産物の消費拡大を全国各地でより一層展開するために、専門家養成研修会を実施し、その研修会の修了者をもって構成されている。講師は昭和62年より3期にわたり養成され、現在、全国25都道府県に36名おり、各地域での普及活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p><会員構成> 生産者団体(県漁連)、流通団体(小売・仲卸・卸) 民間団体(栄養士)、中央団体(県・全漁連・大日本水産会)</p> <p><事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地の料理講習会 3,793回 ・魚食普及講演会 2,985回 ・お魚料理コンクール ・産地学習会、おさかなモデル校 ・消費拡大イベントの企画・実行 ・お魚まつりなどの企画・実行 ・その他関連事項 <p style="text-align: center;">*料理教室及び講演会開催数は、会員による平成7年8月末までの累計。</p>

< 付 5 >

平成 7 年度

都道府県の魚食普及事業の現状報告

都道府県・担当部署 発表者の役職氏名	北海道水産部水産経営課 加工主査 秋山広幸								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>6,700,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>7,800,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(14,500,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	6,700,000円	民間負担金	7,800,000円	(合計額)	(14,500,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	6,700,000円								
民間負担金	7,800,000円								
(合計額)	(14,500,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p><道の補助事業></p> <p>1. 浜のかあさん手づくり特産品販路拡大事業（道単） 漁家経営の安定を図るため、地域水産物を「浜のかあさん手づくり特産品」として販路拡大して、生活の安定と豊かな浜づくりを推進する。 ・事業主体 北海道漁協婦人部連絡協議会 ・事業内容 ①浜のかあさん直接体面販売 浜と浜の味を直接PR ②消費者アンケート調査 商品形態、販売形態、生産体制等の検討 ③地域水産物消費拡大推進PRパンフレットの配布 ・事業費 4,000,000円 ・補助金 2,000,000円</p> <p>2. 秋さけ流通多様化支援事業（道単） 本道主要水産物の秋さけの魚価の低下に対処し、北海道秋鮭普及協議会が実施する需要拡大事業に対し補助を行うとともに輸出振興を図るために、道職員を中華人民共和国に派遣する。 ・事業主体 北海道秋鮭普及協議会 ・事業内容 ①秋さけ流通多様化推進事業補助金 ・個人消費拡大キャンペーン事業 （秋さけ解禁キャンペーン、鮭の日キャンペーン） ・大規模消費流通開拓事業 （モニター調査、出荷形態・方法の検討、消費者PR） ・輸出振興事業 （中国への普及使節派遣とリーフレット配布） ②秋さけ輸出振興支援事業 （秋鮭普及協議会の中国への普及使節団の道職員同行） ・事業費 4,000,000円 ・補助金 2,000,000円</p> <p>3. 道産はたて市場開拓促進事業（道単） 道産はたて貝の需要拡大を図るため、消費水準が低い今後需要の増加が見込まれる関西以西地区に、道産はたて貝を通年販売する「パイロット店舗」を設け、そこを拠点とした販売促進活動や、周辺地区の消費動向調査を実施する事業に対して補助する。 ・事業主体 北海道ホタテ市場開拓促進協議会 ・事業内容 ①販売コーナーでのキャンペーン活動 ②TV等マスコミを利用した宣伝活動 ③アンケートの実施 ・事業費 5,400,000円 ・補助金 2,700,000円</p> <p><水産関係団体が主催する魚食普及事業> 自らの手で自らの生産物であるお魚をよく理解し、これを広く普及し、健康で豊かな地域づくり、浜づくりを目指して全道であげて取り組む。 ・実施主体 北海道漁協婦人部連絡協議会 ・事業展開 「北の浜料理500選」の発刊 事業費：500千円 浜のかあさん料理教室の開催 事業費：600千円</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	青森県水産部漁業振興課流通加工班 主事 笹谷 匠								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>16,000,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>32,000,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(48,000,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	16,000,000円	民間負担金	32,000,000円	(合計額)	(48,000,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	16,000,000円								
民間負担金	32,000,000円								
(合計額)	(48,000,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. ほたてがい流通対策緊急消費拡大事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体：青森県ほたて流通振興協会 ・事業費：48,000,000円 ・補助率：1/3 ・事業概要 <ul style="list-style-type: none"> ①首都圏におけるテレビコマーシャル放映 (35,000千円) 本県産ほたてがいのブランド化と消費拡大を図るため、首都圏において15秒のテレビコマーシャルを放映する。 放映本数：約100本 放映期間：2カ月間 ②首都圏における販売促進キャンペーン (13,000千円) 首都圏の百貨店・スーパー等と提携し、ほたて活貝、むき身(貝柱)等のキャンペーン販売を行い、本県産ほたてがいのブランド化及び消費拡大に資する。 キャンペーン期間：2カ月間 								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	岩手県林業水産部漁業振興課 主任 山口浩史								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>1,850,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>1,850,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(3,700,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	1,850,000円	民間負担金	1,850,000円	(合計額)	(3,700,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	1,850,000円								
民間負担金	1,850,000円								
(合計額)	(3,700,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>秋さけ等利用拡大推進事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 消費宣伝事業 (事業費：700千円、補助率1/2) 料理講習会の開催 2. 学校給食利用促進事業 (事業費：3,000千円、補助率1/2) 学校給食利用への補助等 								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	宮城県水産林業部漁政課流通加工係 係長 須田善治								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">4,800,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">4,800,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(9,600,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	4,800,000円	民間負担金	4,800,000円	(合計額)	(9,600,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	4,800,000円								
民間負担金	4,800,000円								
(合計額)	(9,600,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 県産水産物普及推進事業</p> <p>1) 事業概要 県産水産物の消費拡大及び普及啓蒙を図るため、生産者と消費地流通業界との密接な連絡のもと、消費地を対象とした水産物の調理講習、展示試食広報宣伝等、消費者ニーズに則した生産・流通の促進活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚料理試食講習会 ・魚料理試食講習会用教材提供事業 ・広報宣伝事業 ・県産水産物販売促進事業 <p>2) 事業費 6,000千円 (補助率 1/2以内)</p> <p>2. 水産加工品販路拡大事業</p> <p>1) 事業概要 地場水産加工品の販路拡大及び普及啓蒙を図るため見本市等に出展するとともに、全国の売れ筋商品需要動向を把握し、今後の商品開発や改良及び品質向上等に資する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国水産加工品展示フェア参加 ・全国水産加工品品評会出展 <p>2) 事業費 3,600千円 (補助率 1/2以内)</p>								

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>山形県農林水産部水産課 団体金融主査 小関憲正 " " 主事 佐藤大頭 山形県庄内支庁経済部水産事務所水産振興課 普及指導主査 佐藤清一</p>
<p>平成7年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<p>国庫補助金 ー 円 都・道・府・県費 ー 円 民間負担金 ー 円 (合計額) (ー 円)</p>
<p>平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<p>(県の活動) ①山形県農林水産祭(10月14日、山形市旧県庁前) ・水産物の展示、販売コーナーの設置 ・お魚の調理実演、試食コーナーの設置 により魚食普及を推進した。</p> <p>(県と漁協協賛による活動) ②庄内浜鮮魚直売イベント ・吹浦鮮魚直売会(5月3日、遊佐町大字吹浦) ・全国大漁旗フェスティバル(5月4日、温海町大字鼠ヶ関) ・納屋汁まつり(9月10日、鶴岡市由良) ・地魚まつり(10月22日、酒田市船場町) 地区の漁業者がイベント前日に漁獲した新鮮な魚を直売し、魚食普及を推進した。</p> <p>(県並びに市町村観光協会による活動) ③日本海庄内寒鱈まつり(鶴岡市銀座通り・酒田市中町) 鶴岡会場(平成8年1月21日) ・寒鱈解体調理実演・日本海荒波太鼓・ビッグバンド演奏 ・ハイビジョンゲーム大会・抽選会・もちつき大会 ・新春いけばな展 酒田会場(平成8年1月27日) ・寒鱈どんがら汁大会・豊漁祈願・海上安全祈願祭 ・味の暖簾街・なかまち冬の市・ビッグ抽選会・北前太鼓 ・太鼓道場「風の会」演奏・寒鱈料理ア・ラ・カルト 寒鱈汁、寒鱈料理の実演試食コーナーを設け、庄内浜寒鱈の宣伝並びに魚食普及活動を行った。</p>

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>茨城県農林水産部漁政課 係長 太田牧人</p>
<p>平成7年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<p>国庫補助金 0円 都・道・府・県費 8,040,000円 民間負担金 28,440,000円 (合計額) (36,480,000円)</p>
<p>平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多獲性魚消費拡大促進事業（県単） 本県漁獲量の8割強を占めるマイワシ、サバ、サンマ等の多獲性魚の食用向けの向上、消費拡大を図る。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 魚食普及キャンペーン事業 <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体：茨城県水産物開発普及協会 ・事業費：3,200千円（県1/2、事業主体1/2） ・事業内容：キャンペーン講演会「魚と健康の集い」の開催（食生活改善推進員など1,700人参加） 2) 学校給食供給事業 <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体：茨城県漁業協同組合連合会 ・事業費：29,000千円（県定額4,000千円補助） ・事業内容：てんぷら、揚げ煮の学校給食への供給。（県内、県外各50万食） 2. 地域水産物有効利用推進事業（県単） <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域水産物有効利用推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体：茨城県水産物開発普及協会 ・事業費：1,280千円（県1/2、事業主体1/2） ・事業内容：非食用向け消費が多いマイワシ、サバ等を素材とした料理コンクール、料理講習会の開催。 2) 地域水産物販路開拓調査 <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体：県（委託先：茨城県水産物開発普及協会） ・事業費：800千円 ・事業内容：量販店、生協等への出荷を促進するため、加工業者の実態調査を実施するとともに、仕入れ担当者を交えた促進協議会を開催し、その可能性や課題を整理する。 3. 県のさかな等の制定（県単） <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体：県 ・事業費：1,000千円 ・県のさかな：ひらめ ・旬のさかな：鹿島灘はまぐり（春）、かつお（夏）、ひらめ（秋）、あんこう（冬） ・淡水のさかな：わかさぎ 4. 全国漁連ブランド食品まつり（県漁連単独事業） <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体：県漁連 ・事業費：900千円 ・事業内容：全国の漁連、漁協ブランド品の展示・試食・販売。 ・総売上高：3,800千円 5. おさかな料理講習会（県漁連単独事業） <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体：（県漁連単独事業） ・事業費：300千円 ・事業内容：栄養面、魚のおろし方の講習

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	栃木県農務部首都圏農業課 副主幹 大村まさ子								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>3,900,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(3,900,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	3,900,000円	民間負担金	0円	(合計額)	(3,900,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	3,900,000円								
民間負担金	0円								
(合計額)	(3,900,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. ザ・サカナ消費改善啓発推進事業 魚介類に関する知識と流通を理解するため、講演会、交流会 (料理講習会、懇談会)、情報提供相談活動等を実施する。</p> <p>事業費：1地区 1,000,000円 実施地区：3地区 総事業費：3,000,000円</p> <p>2. ザ・サカナフェスティバル開催事業 魚介類の持つ栄養の特性を見直し、その良さを知って消費改 善を図るために開催する。</p> <p>委託費：900,000円</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	群馬県農政部流通園芸課 主事 宮本順子								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">750,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(750,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	0円	民間負担金	750,000円	(合計額)	(750,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	0円								
民間負担金	750,000円								
(合計額)	(750,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育器材（ビデオテープ、図書等）の購入及び県内地域ステーションへの配布 予算額：100千円 2. 魚食普及並びに消費拡大のための 「のり料理教室」（全漁連187,500円定額補助） 「料理教室」（地域ステーション主催） 等の開催 予算額：400千円 								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	埼玉県農林部農産振興課 主事 野口 茂								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>100,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(100,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	0円	民間負担金	100,000円	(合計額)	(100,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	0円								
民間負担金	100,000円								
(合計額)	(100,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事業名称 マス類消費普及啓発事業 2. 事業概要 住民を対象としたニジマス料理の講習会を開催したほか、「埼玉養殖魚まつり」「埼玉農林ふれあいまつり」「東秩父村産業祭」に参加し、ニジマス、ヤマメ等の試食宣伝販売を実施した。 3. 事業予算 100,000円 4. 事業主体 埼玉県養鱒協会 								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	千葉県水産部水産課 主査 増田修一												
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">国庫補助金</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">0円</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">11,755,000円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">6,860,000円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(18,615,000円)</td> <td></td> </tr> </table>	国庫補助金	0円		都・道・府・県費	11,755,000円		民間負担金	6,860,000円		(合計額)	(18,615,000円)	
国庫補助金	0円												
都・道・府・県費	11,755,000円												
民間負担金	6,860,000円												
(合計額)	(18,615,000円)												
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<ol style="list-style-type: none"> 1. ちばのおさかな高度化推進事業 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事業主体 千葉県シーフード普及促進協議会 構成：県漁連、信漁連、加工連、共済組合、共水連 漁船保険、振興基金、千葉魚食普及会 2) 事業費 12,800,000円(補助率1/2) 県補助金：6,400,000円 負担額：6,400,000円 3) 事業概要 <ol style="list-style-type: none"> (1) ちばのおさかな流通改善対策事業 県産水産物の展示即売(千葉市) 内容：水産加工品 安房の定置網の朝獲り魚の当日販売 (2) ちばのおさかな消費改善対策事業 <ol style="list-style-type: none"> ①魚料理教室の開催(24回) ②魚電話相談(60日) ③学校給食への素材供給・アンケート調査 (8千名/3食/年) ④魚料理冊子の発行(1万冊) 2. 魚食文化フォーラム事業 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事業主体：魚食文化フォーラム実行委員会 委員会構成：県、千葉県シーフード普及促進協議会 鮮魚商組合、消費者代表等16名 (事務局：県水産課内) 2) 事業費 5,815,000円 県負担金：5,355,000円 負担額：460,000円 3) 事業概要 <ol style="list-style-type: none"> (1) 千葉のおいしい魚料理コンテスト(8月21日) 応募93通、うち10名が幕張プリンスホテルの調理場で 料理し、最優秀1名、優秀3名を選出した。 最優秀：イナダの梅肉焼き (2) 魚料理冊子の発行(1万冊) コンテスト入賞作品、郷土料理、特産魚種の料理 (3) 魚食文化フォーラムの開催 <ol style="list-style-type: none"> ①中央大会(千葉市、10月23日、参加者459名) 講演：魚を食べる楽しさ 講師/幕張プリンスホテル 遠山和食料理部長 魚食は健康の宝庫 講師/女子栄養大学 国崎教授 展示：安房の定置網の朝獲り魚、水産加工品等 (展示品は講演終了後、抽選配布) ②地方大会 1(鎌ヶ谷市、10月15日、参加者300名) 講演：魚を食べる楽しさ 講師/船橋保健所管内調理師会 水島副会長 展示：水産加工品等 ③地方大会 2(市川市、10月27日、参加者350名) 講演：魚と自分の健康 講師/豊洲富永一朗 												

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	神奈川県農政部水産課 計画・海業班 主任主事 香川智佳子								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>300,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>300,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(600,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	300,000円	民間負担金	300,000円	(合計額)	(600,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	300,000円								
民間負担金	300,000円								
(合計額)	(600,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>県内産品消費拡大・普及推進助成事業</p> <p><概要> 「第2回かながわフレッシュフードフェア」実行委員会が行う、地場産魚貝藻類料理講習会等への助成。</p> <p><予算> 600,000円</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	新潟県農林水産部水産課指導普及係 水産業改良普及員 本間智晴								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">900,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(900,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	0円	民間負担金	900,000円	(合計額)	(900,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	0円								
民間負担金	900,000円								
(合計額)	(900,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 魚料理講習会（予算：200千円）</p> <p>①おさかな教室 市町村及び関係機関等と協調し、消費者や高校生等を対象に魚に対する情報の提供と調理実習を実施する。</p> <p>②浜と山の交流会 県漁婦連を主体として、漁協婦人部を講師として、農村婦人部を対象に魚料理講習会を実施し、交流を通して農村部への普及を図る。</p> <p>2. 新潟県さかなまつり（予算：600千円） 県内の漁協が扱う鮮魚・加工品の展示即売を中心に、県内で漁獲される魚の消費拡大に係わる啓蒙普及を実施する。</p> <p>3. その他（予算：100千円）</p>								

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>富山県農林水産部水産漁港課 振興係 渡辺</p>
<p>平成7年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<p>国庫補助金 0円 県単補助事業 14,744,000円(補助率1/4以内) 県費補助金 3,000千円</p>
<p>平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要</p>	<p>1. 魚食普及事業(県単補助): 県魚食普及協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理教室(一般・女子学生等) ・広報活動(新聞広告、テレビ広告)

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	福井県農林水産部水産課 漁政企画係 主査 松崎雅之								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>150,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>150,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(300,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	150,000円	民間負担金	150,000円	(合計額)	(300,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	150,000円								
民間負担金	150,000円								
(合計額)	(300,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県主催の「越前・若狭の産業フェア（イベント）」開催時に、大衆魚を使用した惣菜の試食会を実施した。 また、その際にPR冊子の配布等を通し魚食普及を図った。 (実施主体：福井県漁協婦人部連合協議会) 事業予算：200,000円 ・県主催の「みんなの消費生活展」開催時に、大衆魚を使用した惣菜の試食会を実施した。また、その際にPR冊子の配布等を通し魚食普及を図った。 (実施主体：福井県漁協婦人部連合協議会) 事業予算：100,000円 								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	山梨県農務部農業経済課 技師 青柳敏裕								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>110,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>340,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(450,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	110,000円	民間負担金	340,000円	(合計額)	(450,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	110,000円								
民間負担金	340,000円								
(合計額)	(450,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>淡水魚消費拡大事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業主体 山梨県漁業協同組合連合会 2. 事業内容 食用淡水魚（コイ、ニジマス、アユ）の料理の実演及び試食会、ニシキゴイの品評会及び即売会を開催し、一般の消費者の淡水魚への関心を高め、消費の拡大を図る。 3. 事業費 450,000円 (補助額：110,000円 定額補助) 								

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>静岡県林業・水産部水産課流通加工係 副主任 萩原快次</p>						
<p>平成7年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<p>旬カムバック推進事業費補助金（補助率1/2以内） （静岡県おさかな普及協議会に対して助成）</p> <table border="0"> <tr> <td>県補助金</td> <td>2,400,000円</td> </tr> <tr> <td>静岡県おさかな普及協議会</td> <td>2,400,000円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,800,000円</td> </tr> </table>	県補助金	2,400,000円	静岡県おさかな普及協議会	2,400,000円	合計	4,800,000円
県補助金	2,400,000円						
静岡県おさかな普及協議会	2,400,000円						
合計	4,800,000円						
<p>平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<p>1. 事業概要 旬の地元水産物を有用性や季節性の点でアピールし、地元水産物を消費者に見直してもらうとともに、地元水産物をより身近なものとして水産物の消費拡大を図る。</p> <p>2. 事業主体：静岡県おさかな普及協議会</p> <p>3. 事業の内容</p> <p>(1) 旬の魚広報 …………… 1,600千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレンダー作成・配布（旬の魚13選、シンボルマーク、漁法、料理説明入り） 作成部数：10,000部 配布先：小学校等 ・ショッピングバッグの作成・配布 作成部数：100,000部 配布先：鮮魚小売店等 <p>(2) 旬の魚消費推進 …………… 3,200千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚料理教室開催：年12回 ・魚料理番組放映：（NHK静岡放送局、HOT・ホット情報、月1回） ・おさかなシャトルによる魚料理教室開催（年1回） ・おさかな体験教室（大学・短大生対象、年2回） 						

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>愛知県農業水産部水産振興室</p>
<p>平成7年度予算規模 補助金・民間総計額</p> <p>補助金・民間総計額</p>	<p>国庫補助金 円</p> <p>都・道・府・県費 400,000円</p> <p>民間負担金 円</p> <p>(合計額) (円)</p>
<p>平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<p>事業主体：愛知県魚市場協会 事業名称：水産物流通促進対策魚食普及資材作成配布事業</p> <p>さかなカレンダー「愛知の魚50選」を10,000部作成。 会員団体(34団体) 県民サービスコーナーを通じて消費者に配布。 10,000部×71円=710,000円</p>

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	三重県農林水産部漁政課漁業振興係 技師 坂口研一
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<p>国庫補助金 0円</p> <p>都・道・府・県費 1,400,000円</p> <p>民間負担金 5,400,000円</p> <p>(合計額) (6,800,000円)</p>
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>事業名：地域水産物有効利用推進事業</p> <p>事業実施主体：三重県水産物消費拡大促進協議会</p> <p>1. 地域水産物有効利用指導事業 (県単) 2,800,000円 補助率1/2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加型魚食普及イベント参加 ・料理コンクール ・親子魚食講座 ・魚カレンダー及びポスター等の作製 ・NHKテレビ放送 <p>(協議会単独) 2,300,000円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お魚の日の啓蒙 ・料理講習会の開催 ・料理講習会への助成 <p>2. 地域水産物新規販路開拓推進事業 (協議会単独) 300,000円</p> <p>県外のイベント等に参加して本県水産品を出展し、広くPRを行う。</p> <p>3. 地域水産物学校給食利用促進事業 (協議会単独) 1,400,000円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル校を指定し、水産物を提供するとともに、情報誌の発行、アンケートの実施等により、学校給食利用促進を図る。

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	滋賀県農林水産部水産課 主査 藤澤直広								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>2,000,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>2,000,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(4,000,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	2,000,000円	民間負担金	2,000,000円	(合計額)	(4,000,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	2,000,000円								
民間負担金	2,000,000円								
(合計額)	(4,000,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>水産物流通促進対策事業他補助金</p> <p>滋賀県漁業協同組合連合会 滋賀県水産加工業協同組合 滋賀県淡水養殖漁業協同組合 の3団体へ、合計2,000,000円の補助金を支出。 (補助率 1/2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚食普及啓発用パネル、チラシ作成 ・調理実習等湖魚普及 ・水産加工品品評会の開催 ・全国農林水産祭参加 ・新製品流通化事業 								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	京都府農林水産部水産課経営係 技師 今西裕一												
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">国庫補助金</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 20%; text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td></td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td></td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: center;">(</td> <td style="text-align: right;">円)</td> </tr> </table>	国庫補助金		円	都・道・府・県費		円	民間負担金		円	(合計額)	(円)
国庫補助金		円											
都・道・府・県費		円											
民間負担金		円											
(合計額)	(円)											
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>・京都府農林水産フェスティバルにおいて、水産物の展示及び魚食普及啓発を行った。</p> <p style="margin-left: 40px;">開催年月日 平成7年12月8日～9日</p> <p style="margin-left: 40px;">場 所 京都市内</p> <p style="margin-left: 40px;">入場者数 40,000人</p>												

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	奈良県								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費（補助金）</td> <td style="text-align: right;">1,000,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>（合計額）</td> <td style="text-align: right;">（1,000,000円）</td> </tr> </table>	国庫補助金	円	都・道・府・県費（補助金）	1,000,000円	民間負担金	円	（合計額）	（1,000,000円）
国庫補助金	円								
都・道・府・県費（補助金）	1,000,000円								
民間負担金	円								
（合計額）	（1,000,000円）								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>水産物消費拡大推進事業（中央卸売市場特別会計予算）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的 中央卸売市場の水産物流通関係団体及び開設者が一体となって、消費者の水産物に対する理解と関心を高め、健康食品としての魚食の普及促進を図ることにより、市場流通の拡大と活性化に努める。 2. 補助金交付団体 奈良県魚食普及協議会（昭和62年10月設立、活動を開始し現在に至る） 構成 ……中央卸売市場水産物卸売業者（2社） " 水産物卸協同組合（仲卸組合） " 水産物商業協同組合（売参人組合） 3. 団体が行う事業内容 ①事業規模（予算） 3,103千円（平成7年度） ②事業内容 ・水産物を利用した料理講習会等の開催（年8回） ・消費拡大のための宣伝広報活動 ・お魚テレホンサービスの実施 4. 事業予算 1,000千円（補助金額） …… 定額 								

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>和歌山県農林水産部水産課漁業振興班 平野育生</p>
<p>平成7年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<p>国庫補助金 0円 都・道・府・県費 150,000円 民間負担金 150,000円 (合計額) (300,000円)</p>
<p>平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<p>平成7年度 親子おさかな料理教室</p> <p>事業主体：和歌山県漁業協同組合連合会 田辺漁業協同組合</p> <p>開催場所：和歌山市、新宮市、田辺市</p> <p>参加人数：86組（小学生と保護者のペア）</p> <p>講師：①和歌山県漁業協同組合連合会 茶養士とおさかなママさん ②田辺漁業協同組合 地元漁師と漁協婦人部</p> <p>内容：①魚のおろし方、扱い方の指導 ②水産物の素材を生かした料理実習 ③魚についてのクイズ</p>

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	島根県農林水産部水産振興課 経営流通係																		
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">国庫補助金</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">4, 500, 000</td> <td style="width: 10%;">円</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">4, 500, 000</td> <td>円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td></td> <td>円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(9, 000, 000)</td> <td>円</td> <td></td> </tr> </table>	国庫補助金	4, 500, 000	円		都・道・府・県費	4, 500, 000	円		民間負担金		円		(合計額)	(9, 000, 000)	円			
国庫補助金	4, 500, 000	円																	
都・道・府・県費	4, 500, 000	円																	
民間負担金		円																	
(合計額)	(9, 000, 000)	円																	
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p style="text-align: center;">事業名称：地域水産物高度化推進圏形成事業</p> <p><事業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域水産物高度化推進圏島根県推進協議会の開催 漁業団体、流通業者代表、生産者代表、学識経験者、水産振興課、水産試験場によって構成し、水産物加工・流通の高度化、組織化、指導者育成の方策を検討する。 2. 加工・品質管理マニュアルの作成 加工・品質管理マニュアル作成委員会を開催し加工・品質管理マニュアルを作成する。 3. 組織化の推進 地域水産物高度化推進圏各地域推進協議会を開催し、個々の漁協が、販売、加工を行うのではなく、流通に大きな力を持つ量販店に対応するため、漁協間の連携、協力体制により、生鮮及び加工品について一定の品質及び数量の確保を図り、地域ごとに核となる漁協を中心に連携、協力を図っていく体制の整備を推進するための地域構想の作成及び指導者育成事業、高度化推進事業の推進について協議する。 4. 指導者の育成 加工・品質管理・販路開拓・流通・市場動向に精通した人材の育成のため、先進地調査、研修会の開催、他団体の研修会への参加等を実施する。 5. 高度化の推進 価格的に安く、品質的に優れた輸入水産物の増加、大口需要者への対応、活魚流通、消費形態に合わせた処理加工の促進、消費者との直結型の新しい流通形態への対応、また、高速交通体系整備に伴い流通経路が多元化し、集荷の効率化が必要となるなど諸課題への対応のため、市場動向調査、先進地調査、新製品開発、製品の品質向上、販路開拓、地域水産物ブランド化、量販店等との直接取引の促進等を推進する。 <p><事業予算></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業実施年度 平成7年度から9年度 2. 平成7年度事業費（国庫補助1/2） <table style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tr> <td style="width: 70%;">都道府県推進協議会費</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">1, 368</td> <td style="width: 20%;">千円</td> </tr> <tr> <td>加工・品質管理マニュアル作成事業</td> <td style="text-align: right;">1, 776</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>組織化推進事業費</td> <td style="text-align: right;">2, 272</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>指導者育成事業費</td> <td style="text-align: right;">2, 090</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>高度化推進事業費</td> <td style="text-align: right;">1, 494</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合 計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">9, 000</td> <td style="border-top: 1px solid black;">千円</td> </tr> </table> 	都道府県推進協議会費	1, 368	千円	加工・品質管理マニュアル作成事業	1, 776	千円	組織化推進事業費	2, 272	千円	指導者育成事業費	2, 090	千円	高度化推進事業費	1, 494	千円	合 計	9, 000	千円
都道府県推進協議会費	1, 368	千円																	
加工・品質管理マニュアル作成事業	1, 776	千円																	
組織化推進事業費	2, 272	千円																	
指導者育成事業費	2, 090	千円																	
高度化推進事業費	1, 494	千円																	
合 計	9, 000	千円																	

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	岡山県農林部水産課漁政係 水戸 鼓								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">800,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">800,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(1,600,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	800,000円	民間負担金	800,000円	(合計額)	(1,600,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	800,000円								
民間負担金	800,000円								
(合計額)	(1,600,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 平成7年度 フライト等高速流通農産物販売促進対策事業 (水産物販売促進事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業予算：1,600,000円(補助率1/2) ・概要 岡山かきの販売促進を図るため、札幌及び東京で消費宣伝を行う。 								

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>山口県水産部水産課 企画員 中島 晋</p>								
<p>平成7年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<table> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>2,600,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>4,500,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(7,100,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	2,600,000円	民間負担金	4,500,000円	(合計額)	(7,100,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	2,600,000円								
民間負担金	4,500,000円								
(合計額)	(7,100,000円)								
<p>平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 水産やまぐちシーフードネットワーク事業（県単） <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体：山口県魚食普及推進協議会 ・事業費：3,600,000円（1/2補助） ・事業内容：料理コンクールの開催、料理講習会等の開催、研修会の開催、水産加工入門書の作成 2. 水産物消費拡大対策事業（県単：団体運営費補助） <ul style="list-style-type: none"> ・補助団体：山口県魚食普及推進協議会 ・補助金額：800,000円 ・補助対象：協議会の広告宣伝費として補助 3. 山口県魚食普及推進協議会の実施事業内容 <ol style="list-style-type: none"> ①広報活動 ②料理講習会等の開催 ③おさかな料理コンクールの開催 ④学校給食会との連携 ⑤ヘルシーおさかな普及員レベルアップ研修会の開催 ⑥県農林水産まつり等各種イベントでの活動 ⑦魚食普及ステーション事業 <p style="text-align: center;">以上総事業費 7,100,000円</p> 								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	香川県農林水産部水産課 養殖・流通担当
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	7,944,000円
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 水産物有効利用推進事業（県単独事業） 6,944千円 平成6年度まで国補事業として実施していたものうち、地域水産物有効利用推進指導事業、地域水産物学校給食利用促進事業及び地域水産物新規販路開拓推進事業について、県単独事業として実施している。また、主に県外消費地を対象とした県産魚の消費拡大のための広域的需要開発事業を行っている。</p> <p>1) 地域水産物有効利用指導事業 1,524千円 2) 地域水産物学校給食利用促進事業 1,120千円 3) 地域水産物新規販路開拓推進事業 1,800千円 4) 広域的需要開発事業 2,500千円</p> <p>2. 内水面水産物需要開拓事業 1,000千円 内水面で生産された水産物の需要を開拓し、内水面水産物に対する認識を新たにしてもらうために、協議会を開催するとともに料理講習会を開催し、意識の啓発を図る。また、淡水魚を素材とした特産品の普及を図るために製品開発の研究を行う。</p> <p>1) 内水面水産物有効利用促進協議会、検討会の開催 250千円 2) 内水面水産物の利用普及 250千円 県産主要内水面水産物を用いた料理講習会（県下2地区） 3) 県淡水魚を素材にした特産品の研究開発 500千円</p>

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	愛媛県水産局漁政課流通加工係 専門員 桑原志都								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">10,687,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">15,887,000円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(26,574,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	10,687,000円	民間負担金	15,887,000円	(合計額)	(26,574,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	10,687,000円								
民間負担金	15,887,000円								
(合計額)	(26,574,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<ol style="list-style-type: none"> 1. 魚食普及推進事業 全7,070千円 事業実施主体：愛媛県魚食普及推進協議会 <ol style="list-style-type: none"> 1) 魚食普及特別対策事業 (県 1/3補助) <ol style="list-style-type: none"> (1) えひめの魚食普及活動基本計画の推進 協議会、幹事会を開催し魚食普及推進のための協議を行う (2) おさかなヘルシー1日教室 魚離れの歯止めとお魚健康食の普及を目的に、中、高、大学生を対象に、地域のお魚の健康食の実習、魚のよさの講話、魚の上手な食べ方等についておさかなママさんを講師にして実施。 (3) シーフード実践育成指導 小、中、高、PTA、家庭科クラブを対象にメニュー方式で実施。メニューは①お魚教室 ②水産施設の見学 ③体験交流学習 ④文化祭等への参加 ⑤研究発表大会 ⑥お魚通信 ⑦子供お魚博士パーティ 2) おさかなママさんネットワーク事業 (県 1/2補助) <ul style="list-style-type: none"> ・活動打合せ・活動交流・おさかなキャラバン隊(人形劇) 2. 魚食普及地域イベント開催事業 (県 1/3補助) 全5,400千円 事業実施主体：愛媛県魚食普及推進協議会 <ol style="list-style-type: none"> 1) さかな祭 <ul style="list-style-type: none"> ・魚料理実演・魚ふれあい体験・魚祭り開催啓蒙等 2) さかなフォーラム <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演、パネル討議、シーフードモデル校体験発表、郷土料理展示等 3. えひめ水産まつり (県 1/3補助)～魚食普及関係～ 全12,000千円 事業実施主体：えひめ水産まつり実行委員会 <ol style="list-style-type: none"> 1) 鮮魚即売、バザー(海のまistran、海鮮バーベキュー) 4. えひめ産業文化まつり ～水産関係～ 2,106千円 事業実施主体：愛媛県文化振興課 <ol style="list-style-type: none"> 1) お魚料理の展示 (おさかなママさん) 2) 水産加工品の展示 (愛媛県漁協婦人部連合会) 3) 料理教室 ～さばき方、手巻さずしの実演～ (愛媛県漁協婦人部連合会) 4) 啓蒙活動 ～人形劇の上演～ (おさかなママさん) 5) 協賛展 ～鮮魚即売、バザー～ (水産関係団体) 								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	高知県海洋局海洋漁政課 企画班 技監 田島健司								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">1,300,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">約55,000,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(約56,300,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	1,300,000円	民間負担金	約55,000,000円	(合計額)	(約56,300,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	1,300,000円								
民間負担金	約55,000,000円								
(合計額)	(約56,300,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>県の補助対象事業</p> <p>魚食普及そのものを対象とした事業への助成制度はありませんが、魚価対策関連補助事業のなかで、魚食普及にも積極的に取り組むよう事業実施主体に対して指導を行っています。</p> <p>(例) 漁業祭：鮮魚・水産加工品等の即売会 事業主体 高知県漁連 事業費 5,300千円 (補助率 1/2以内)</p> <p>水産関係団体が主催する魚食普及事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. かつお・まぐろ直販キャンペーン (高知県かつお・まぐろ漁業振興協議会) 2. 福祉施設等寄付事業 (高知県鯉鮪漁業協同組合) 3. 漁業協同組合の直販キャンペーン <ul style="list-style-type: none"> ・県漁連＝鮮魚・塩干等加工品一般 ・佐賀漁協＝かつお ・清水漁協＝清水さば ・宿毛市漁協＝きびなご 								

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>福岡県水産林務部水産振興課経営流通係 主事 星野泰弘</p>
<p>平成7年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<p>国庫補助金 0円 都・道・府・県費 5,655,000円 民間負担金 6,524,000円 (合計額) (12,179,000円)</p>
<p>平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<p>1. 魚食普及事業 多獲性大衆魚を中心とした魚食の普及拡大を図るため、 各種事業を実施する。 (1) 県内2～3カ所で水産祭の開催 (2) 料理講習会、料理実習の開催 (3) 「お魚屋さんのキャッチフレーズ&川柳」募集キャン ペーン ・総事業費：5,700,000円(うち県補助金2,000,000円) ・補助率：1/2以内 ・実施主体：福岡県魚食普及協議会</p> <p>2. 淡水魚消費拡大推進事業 食生活における淡水魚の重要性PRと、料理講習会及び試食 会の開催 ・総事業費：1,169,000円(うち県補助金1,000,000円) ・補助率：定額 ・実施主体：福岡県内水面漁業協同組合連合会</p> <p>3. 福岡県水産物ブランド推進事業 県内水産物の発展と魚食普及を推進するため、県内産水産物 を利用したブランド水産加工品を開発し、販路開拓及びPRを 実施する。 ・総事業費：5,310,000円(うち県補助金2,655,000円) ・補助率：1/2以内 ・実施主体：福岡県漁業協同組合連合会</p>

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	佐賀県水産振興課 主事 山下 茂								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">10,872,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">3,250,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(14,122,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	10,872,000円	民間負担金	3,250,000円	(合計額)	(14,122,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	10,872,000円								
民間負担金	3,250,000円								
(合計額)	(14,122,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 県産水産物利用促進事業</p> <p>概要：県産水産物の消費者へのPRを通じた消費拡大を図るため、生産者、流通関係者、加工業者等による水産関係イベントの開催を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業予算 4,000,000円 ・補助率 1/2 <p>2. 県産水産物流通システム確立対策事業</p> <p>概要：県産水産物の付加価値向上と販路の拡大を図るため、関係諸団体による検討・協力機関としての協議会の設置と県内の水産物の流通実態に関する調査を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算額 2,622,000円（県直営） <p>3. 海のうまかもんづくり推進事業</p> <p>概要：地域の特性に応じた特産品の試作、販路開拓など、商品化への取り組みを支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算額 2,500,000円（補助率1/2） 								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	長崎県水産部生産流通課 技師 今中武士								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">6,000,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">9,500,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(15,500,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	6,000,000円	民間負担金	9,500,000円	(合計額)	(15,500,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	6,000,000円								
民間負担金	9,500,000円								
(合計額)	(15,500,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. お魚大好き啓発事業</p> <p>事業費：6,000千円 (県費 3,000千円 補助率1/2)</p> <p>若い世代に対し、県水産物の調理方法を普及啓発するため、小・中・高等学校、短大などに家庭科用教材として県産魚介類を提供、シーフードプロモーターを派遣して、調理実習、栄養に関する学習会を実施する。</p> <p>2. 新長崎魚祭り開催事業</p> <p>事業費：9,500千円 (県費 3,000千円 定額)</p> <p>魚食普及のための企画検討、会場設営、アトラクション等を実施する。</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	熊本県林務水産部漁政課 企画流通係 参事 井上敏次								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">6,035,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">5,420,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(11,455,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	6,035,000円	民間負担金	5,420,000円	(合計額)	(11,455,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	6,035,000円								
民間負担金	5,420,000円								
(合計額)	(11,455,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 地域水産物有効利用推進事業</p> <p>1) 補助事業(事業主体:熊本県魚食普及推進協議会) 事業費: 5,940千円 (うち県補助金: 2,970千円 補助率1/2)</p> <p>(1) 有効利用指導事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お魚リーダー」による料理教室 ・高等学校における料理教室 ・PTA等の料理教室支援 <p>(2) 新規販路開拓推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「くまもとお魚フェア」の開催。 平成7年11月5日(熊本地方卸売市場) <p>(3) 学校給食利用促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食利用協議会の開催 ・モデル校における水産物導入試験 <p>2) 県直事業 事業費: 615千円(うち県費 615千円 負担金0円)</p> <p>(1) モニター設置事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お魚リーダー」の養成 <p>2. 熊本水産物ブランドづくり推進事業 補助事業(事業主体:熊本県魚食普及推進協議会) 事業費: 3,600千円 (県補助金: 1,800千円 補助率1/2)</p> <p>ラジオ番組制作放送による魚食の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5分番組 ・月～金の週5日 <p>3. 魚食普及推進事業 補助事業(事業主体:熊本県魚食普及推進協議会) 事業費: 1,300千円 (うち県補助金: 650千円 補助率1/2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター、チラシ等の印刷購入費 ・消費者等との交流会開催 								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	大分県林業水産部漁政課 主事 工藤幹治								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>7,000,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>19,000,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(26,000,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	7,000,000円	民間負担金	19,000,000円	(合計額)	(26,000,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	7,000,000円								
民間負担金	19,000,000円								
(合計額)	(26,000,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 水産物需要拡大促進事業</p> <p>①事業主体：大分県魚食普及推進協議会 補助対象事業費：2,000千円（県1/2、県民1/2） 事業概要：料理講習会</p> <p>②事業主体：大分県水産加工業振興協議会 補助対象事業費：1,000千円（県1/2 県民1/2） 事業概要：講習会、視察、販売促進キャンペーン</p> <p>2. 水産振興祭実施事業</p> <p>事業主体：大分県水産振興祭実行委員会 総事業費：17,000千円（県2,500千円 定額） 事業概要：式典、鮮魚・活魚販売、料理教室、水産の現状などを紹介したパネルの展示他</p> <p>3. 地域特産水産物銘柄化推進事業</p> <p>事業主体：各海域ごとの銘柄化推進協議会 総事業費：6,000千円（県1/2 事業主体1/2） 事業概要：全県及び灘別の主要魚種をリストアップし、その銘柄化に向けて各海域を中心に銘柄化推進協議会を設置し実践活動を通じて地域代表魚種の銘柄化を図るため、共同出荷の実践、キャンペーン等PR作戦の実施、集出荷設備の整備。</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	宮崎県農政水産部漁政課 主事 神田 茂								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>5,105,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>1,395,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(6,500,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	5,105,000円	民間負担金	1,395,000円	(合計額)	(6,500,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	5,105,000円								
民間負担金	1,395,000円								
(合計額)	(6,500,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 水産物県内消費拡大事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業概要 各種イベントを通じて、魚の調理法や魚の持つ栄養特性を広く県民にアピールし、水産物の消費拡大を図るとともに、鮮魚店経営者等を対象とした研修会を開催する。 ・事業予算 2,570,000円(補助率1/2以内) <p>2. 魚食普及状況調査委託事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業概要 ターゲットを絞った魚食普及活動を行うために、地域ごとの魚食普及状況をアンケートにより調査し分析を行う。 ・事業予算 3,930,000円(委託料) 								

都道府県・担当部署 発表者の役職氏名	鹿児島県林務水産部水産振興課 漁業構造改善係 主事 柳田健一																																								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>9,858,000</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>8,500,000</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>8,500,000</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(18,358,000)</td> <td>円</td> </tr> </table>				国庫補助金	9,858,000	円	都・道・府・県費	8,500,000	円	民間負担金	8,500,000	円	(合計額)	(18,358,000)	円																									
国庫補助金	9,858,000	円																																							
都・道・府・県費	8,500,000	円																																							
民間負担金	8,500,000	円																																							
(合計額)	(18,358,000)	円																																							
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 事業名 かがしま旬のさかな推進事業</p> <p>2. 事業概要</p>																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業種目</th> <th>事業主体</th> <th>事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>かごしまのさかな広報普及事業</td> <td>かごしまのさかな普及協議会</td> <td>県が定めた「かごしま旬のさかな」の調理方法を紹介したパンフレットの作成、マスメディアを活用した広報宣伝、料理コンクールの実施、おさかなフェスティバルの開催。</td> </tr> <tr> <td>わくわく水産ランド事業</td> <td>県</td> <td>「海の祭典」において、水産業をPRするとともに、来場した一般消費者を対象に「さかなのおろし方教室」を実施。</td> </tr> <tr> <td>水産物品評会</td> <td>県</td> <td>県内の水産加工品を一室に集めての品評会の実施。</td> </tr> <tr> <td>浜の味商品化促進事業</td> <td>県市町村(2カ所)</td> <td>漁村で開発された水産加工品の商品化を促進するための指導等</td> </tr> </tbody> </table>	事業種目	事業主体	事業内容	かごしまのさかな広報普及事業	かごしまのさかな普及協議会	県が定めた「かごしま旬のさかな」の調理方法を紹介したパンフレットの作成、マスメディアを活用した広報宣伝、料理コンクールの実施、おさかなフェスティバルの開催。	わくわく水産ランド事業	県	「海の祭典」において、水産業をPRするとともに、来場した一般消費者を対象に「さかなのおろし方教室」を実施。	水産物品評会	県	県内の水産加工品を一室に集めての品評会の実施。	浜の味商品化促進事業	県市町村(2カ所)	漁村で開発された水産加工品の商品化を促進するための指導等	<p>3. 事業費等</p> <p style="text-align: right;">単位：円</p>																									
事業種目	事業主体	事業内容																																							
かごしまのさかな広報普及事業	かごしまのさかな普及協議会	県が定めた「かごしま旬のさかな」の調理方法を紹介したパンフレットの作成、マスメディアを活用した広報宣伝、料理コンクールの実施、おさかなフェスティバルの開催。																																							
わくわく水産ランド事業	県	「海の祭典」において、水産業をPRするとともに、来場した一般消費者を対象に「さかなのおろし方教室」を実施。																																							
水産物品評会	県	県内の水産加工品を一室に集めての品評会の実施。																																							
浜の味商品化促進事業	県市町村(2カ所)	漁村で開発された水産加工品の商品化を促進するための指導等																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事業種目</th> <th colspan="3">負担区分</th> <th rowspan="2">補助率</th> </tr> <tr> <th>事業費</th> <th>県費</th> <th>事業主体負担</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>かごしまのさかな広報普及事業</td> <td>12,000,000</td> <td>4,000,000</td> <td>8,000,000</td> <td>1/3</td> </tr> <tr> <td>わくわく水産ランド事業</td> <td>3,705,000</td> <td>3,705,000</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>水産物品評会</td> <td>334,000</td> <td>334,000</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>浜の味商品化促進事業(県単)</td> <td>1,319,000</td> <td>1,319,000</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>〃(補助事業)</td> <td>1,000,000</td> <td>500,000</td> <td>500,000</td> <td>1/2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>18,358,000</td> <td>9,858,000</td> <td>8,500,000</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	事業種目	負担区分			補助率	事業費	県費	事業主体負担	かごしまのさかな広報普及事業	12,000,000	4,000,000	8,000,000	1/3	わくわく水産ランド事業	3,705,000	3,705,000	—	—	水産物品評会	334,000	334,000	—	—	浜の味商品化促進事業(県単)	1,319,000	1,319,000	—	—	〃(補助事業)	1,000,000	500,000	500,000	1/2	合計	18,358,000	9,858,000	8,500,000				
事業種目		負担区分				補助率																																			
	事業費	県費	事業主体負担																																						
かごしまのさかな広報普及事業	12,000,000	4,000,000	8,000,000	1/3																																					
わくわく水産ランド事業	3,705,000	3,705,000	—	—																																					
水産物品評会	334,000	334,000	—	—																																					
浜の味商品化促進事業(県単)	1,319,000	1,319,000	—	—																																					
〃(補助事業)	1,000,000	500,000	500,000	1/2																																					
合計	18,358,000	9,858,000	8,500,000																																						

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	沖縄県農林水産部水産振興課流通加工係 主任 新里勝也								
平成7年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">6,350,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(6,350,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	0円	民間負担金	6,350,000円	(合計額)	(6,350,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	0円								
民間負担金	6,350,000円								
(合計額)	(6,350,000円)								
平成7年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p style="text-align: center;">オキナワモズク販売促進事業</p> <p>オキナワモズクは養殖技術の定着により、生産も順調に伸展してきており、沖縄県水産業の基幹産物となっている。しかし、利用形態が酢の物中心になっているため、需要が頭打ちになっており、消費の拡大が課題となっている。</p> <p>このようなことから、沖縄県漁連が主体となり、利用方法の多様化を図るため、消費拡大事業を継続して実施しており、平成7年度は、以下の事業を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 普及啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット作成 ・マスコミ広告等 2. イベント事業 <ul style="list-style-type: none"> ・マリンフォーラム（海の記念日関連事業） ・ヘルシー料理教室 ・離島フェア（県内） ・産業まつり（県内） ・農林水産祭（東京） ・健康展（香港） 3. 社会福祉事業 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設へのプレゼント 								

